復興活動一年目の記録 : 社会福祉協議会の震災被災者支援活動 : 1995.4-1996.3 - 発行:神戸 : 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 : 神戸市社会福祉協議会, 1997.1. 請求記号:震災-7-379. p20-29

東灘区社会福祉協議会

1．東灘区の被災状況

東灘区は神戸市の中でもとりわけ被害が大きかった地域であり、死亡者1，461名（全市の32．4%）は被災地でもっとも多く、全半壊・全半焼家屋の全棟比率は5割を越えるものであった。人口・世帯数は平成8年4月1日時点で、地震直前より36，000人、15，000世帯の減少をみた。まさに空前の被害状況であったが、平成8年4月1日から5月1日にかけ人口の微増、昨年の建築確認申請件数［5，671戸（H7．2．1～H．8．4．1）全市の21%］が全市トップであること、阪神高速道路の全面復旧が平成8年10月、住吉川の河川工事が平成9年3月完了予定といった状況もでてきており、復興の槌音が聞こえはじめた昨今である。一方、仮設住宅等一時使用住宅の状況は、約3，900戸が設置され、入居世帯は約3，800世帯、うち65歳以上の高齢者世帯は4割、しかも全体の4軒に1軒がひとりぐらし高齢者という状況である。これは、我が国の超高齢社会のピークといわれる2，025年の人口の4分の1が65歳以上という状況をはるかに超えており、地域的ではあるが、巨大なお年寄り社会が仮設住宅という場で出現している。当然に、様々な福祉施策がなかなか追いつかない現況であり、それをカバーする社会福祉協議会を中心とした地域福祉実践が求められてきた。

（図表1）東灘区の被害状況

1．人口・世帯数

区　　分	人　　口	1　月　比	世　帯　数	1　月　比
H7．1．1	191，716人	－	77，296世帯	－
H7．7．1	176，529人	▲15，187人	71，426世帯	▲5，870世帯
H7．10．1	157，999人	▲34，117人	62，864世帯	▲14，432世帯
H8．4．1	155，605人	▲36，111人	62，148世帯	▲15，148世帯
H8．5．1	156，409人	▲35，307人	62，829世帯	▲14，467世帯

2．被災状況（平成8年1月17日　神戸新聞）

	死亡者数	対人口比　%	全半壊家屋の棟数　A	全半焼家屋の棟数　B	A、Bの全棟対比　%	ピーク時の避難者数
東　灘　区	1，461	0．76	19，225	349	50．2	64，974
神　戸　市	4，512	0．30	122，566	7，048	32．6	236，899

3．一時使用住宅の状況（平成8年2月）

住宅戸数3，995戸（一般仮設3，434、地域型仮設449、公営住宅一時使用42、公団一時使用70）入居者3，813世帯、7，405人
65歳以上のみの世帯1，600世帯（42．0%）［ひとりぐらし1，005世帯（人）］
身障1・2級の者がいる世帯315世帯（8．3%）、母子世帯248世帯（6．5%）

2．地域福祉復興活動の取り組み

東灘区社会福祉協議会は、震災以来、地域福祉の視点に立って、震災ボランティア活動の調整からボランティアセンターの開設、仮設住宅入居者への支援活動や新たなボランティアの組織化、ボランティアのみならず保健・医療・福祉の専門機関・団体のネットワークの形成等について取り組んできた。「区社協」は、その事務局職員17名（震災当時）の8割が行政（災害対策本部）の兼務職員であることから、固有の社協活動が「見えなかった」という批判があるが、その活動はまぎれもなく地域福祉実践であり、住民と力を合わせ、微力ながら激震地東灘の地域福祉復興に取り組んできたことを強調しておきたい。

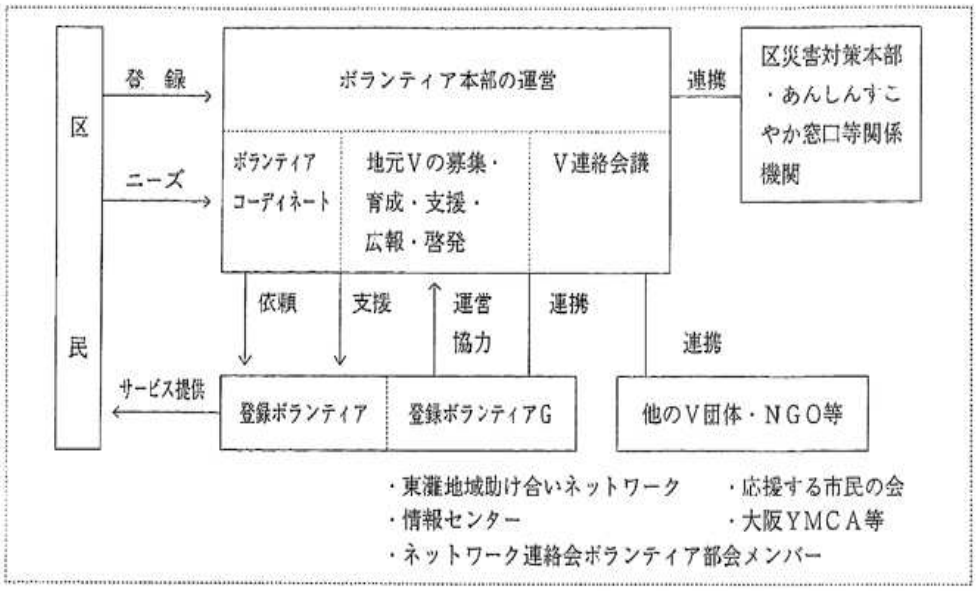
（1）　ボランティア活動の調整とボランティアセンターの開設

震災ボランティア活動は、震災直後から隣近所による相互の人命救助活動に始まり、その後、保健所を拠点にボランティアの医師・看護婦による医療救護活動、避難所対応としての運営補助、物資搬送等へと変化していった。区社協の調整活動は、2月始め、避難所からの被災者のニーズの受入れをめぐって、すでに組織化されていた100名規模の学生ボランティアグループと行政の災害対

策本部との間にトラブルが生じてきたため、その調整役として、連絡会議を開催することに始まった。また、地元の主婦を中心としたグループも立ち上がりをみせてきたため、7つのグループのリーダー層を集め、その力を結集するべく、関係調整と活動拠点としてのプレハブ等の貸与などその活動を支援してきた。さらに学生グループ、地元グループ、外部ＮＰＯ（応援する市民の会等）との総合的な連絡調整と、区民からのニーズをできるだけ一元的に受入れることを目的としたシステムとして、兵庫区に次いで平成7年3月20日、東灘区ボランティアセンター（東灘区災害復興ボランティア本部）を開設した。開設から暫くの間は、グループまかせのコーディネートが中心でしかなかったが、平成8年3月31日時点で、登録グループ75団体、登録個人566人を数え、コーディネーターとグループリーダーや個人ボランティアとのネットワークも徐々に形成され、コーディネーターをキーパーソンとした、オーソドックスなボランティアコーディネート業務が徐々に確立しつつある（図表2）。

なお、ボランティアセンターの平成7年度（5月～3月）の相談・情報提供件数は2，444件であり、全国平均の181件［平成7年度社会福祉協議会活動実態調査（全社協）］をはるかに上回っている。

（図表2）東灘区ボランティアセンター（東灘区災害復興ボランティア本部）のシステム図



（2）六甲アイランド仮設住宅入居者保健・福祉ニーズ調査

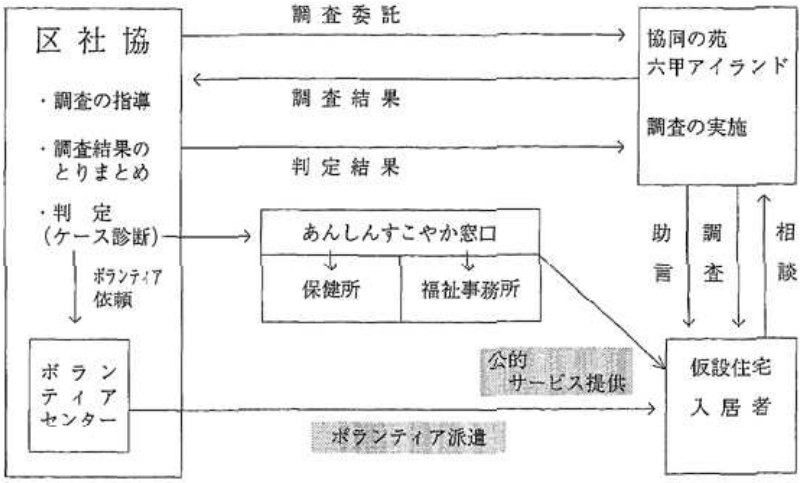
平成7年5月一斉に六甲アイランド仮設住宅2，090戸への入居が始まり、5月中には半分強の1，118世帯が入居した。優先入居制がとられたため、たくさんの高齢者・障害者が入居することとなり、さまざまな福祉ニーズが存在するものと予測された。事実、5月末には独居高齢者の孤独死問題がマスコミで大きく報道された。この調査は、統計データを得ることは副次的な目的であり、潜在化している高齢者・障害者の保健・福祉ニーズを個別に明らかにし、必要な公的サービスとボランティアの援助をボランティアセンターを媒介にシステム的に提供することを目的とした。

調査結果では、「問題なし」とされたケースは入居世帯の56％であり、半数近くの人が何らかの保健・　福祉的な問題をかかえていることが判明した（図表3）。

（図表3）六甲アイランド仮設住宅保健・福祉ニーズ調査概要

高齢者・障害者の生活実態や保健・福祉ニーズ及びボランティアニーズを把握するために区社協が社会福祉法人「協同の苑」に委託して、平成７年５月９日～５月31日まで全戸を訪問調査

① 調査方法とニーズ対応（概念図）



2）調査結果概要

六甲アイランド仮設住宅調査結果

1．調査期間　平成7年5月9日～5月31日
2．調査総数　2，090
　調査件数　1，118
　高齢者居住世帯数　783（70%）

3．世帯内訳

65歳以上高齢者入居世帯	783
65歳未満障害者入居世帯	68
留守で未調査	210
入居していない	764
その他の世帯	266
計	2，090

4．高齢者居住世帯内訳（　）はひとりぐらし

第1仮設	138	（48）
第2仮設	131	（47）
第3仮設	121	（45）
第4仮設	117	（43）
第5仮設	94	（37）
第6仮設	160	（88）
第7仮設	22	（7）
計	783	（315）

5．ケースの分類（重複アリ）

		%	
1）公的サービスが必要なケース	83	（7．4）	（ホームヘルプ・保健婦訪問・入浴サービス等）
2）ボランティアによる援助が必要なケース	57	（5．1）	（外出・通院介助・家事援助・話し相手等）
3）生活障害があるケース（1・2の予備群）	104	（9．3）	（一応自立できているが身体障害等により何らかの生活障害があるケース）
4）医療ケース	473	（42．3）	（現在、医療を受けているか又は必要なケース）
5）特に問題のないケース	626	（56．0）	
6）除外ケース（母子等）	31	（2．8）	

（3）仮設住宅での友愛訪問活動の推進

（2）でふれた孤独死問題は、当時近所づきあいやコミュニティ活動が存在せず、まるでゴーストタウンのような様であった仮設住宅について、もっとも基本的で重要な地域福祉課題であった。ひとりぐらしのお年寄りの安否確認や話し相手活動を行う「友愛訪問活動」は神戸市では古くからあったが、民生委員やボランティア自身が被災していることから、広報紙によってボランティアを募集し、仮設住宅等に居住する民生委員の協力を得て、新たに仮設住宅に対応する「友愛訪問ボランティアグループ」を組織化することとした。友愛訪問全体の活動状況は、平成8年3月末現在のグループ数105団体、活動者数317人で、7年度の年間訪問回数は25，825

回であった。平成7年12月時点での活動者数は、新たに組織化した仮設住宅地域が在来地域を上回っていた。地味な活動ではあるが、被災高齢者の「こころの支え」ともなっており、数量的にも区内最大のボランティア活動である（図表4）。

（図表4）友愛訪問活動の状況

目的：地域の方々がボランティアとして、孤立しがちなお年寄りを温かく見守り、支え合うことによって、お年寄りと社会とのつながりを保ち、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくりをめざす活動。（市社協友愛訪問ハンドブック）
対象：65歳以上のひとりぐらしのお年寄り等
内容：1．安否確認　2．話し相手　3．相談　4．その他（家事援助・介護等）
活動状況
（平成7年度年間活動状況）

要訪問老人数	グループ数	活動者数	訪問回教	活動内容					
平成8年3月現在				安否確認	話相手	相談	家事援助	介護等	計
1，547	105	317	25，825	10，946	13，478	651	402	68	25，545

（グループ数・活動者数）

		グループ数	活動者数
平成6年度	－	72	378
平成7年度（平成7年12月現在）	在来地域	40	155
	仮設住宅	35	183
	計	75	338

（4）車椅子福祉車両等による移送サービス

仮設住宅が、必ずしも病院・ショッピングセンター等の生活関連施設の近くに設置されていないことから、自力で移動が困難な高齢者・障害者等の通院・外出など「移動」の確保は大きな課題であった。
区社協は、車椅子のまま乗降が可能な特殊車両を民間篤志団体から寄贈を受け、運転ボランティアを募集・組織化して、移送サービスを実施することとした。平成7年11月事業開始、平成8年3月末までで、28件の相談を受け、19件のボランティア派遣を行った。車椅子福祉車両の操作方法に若干の技術習得が必要なこと、活動にともなう危険負担の問題などからボランティアがなかなか増加しない状況にある。サービスのいっそうのＰＲとともに、ボランティアの育成が課題となっている。

（移送サービス）

（5）地域福祉復興活動促進助成

地域団体やボランティアグループによる多様な被災者生活支援活動や元気回復イベントを支援するため、原則として1団体あたり10万円を限度とした助成を実施。ボランティア団体10団体、ふれあいのまちづくり協議会3か所、ふれあいセンター13か所、給食サービスグループ10か所に対し、助成を行った。

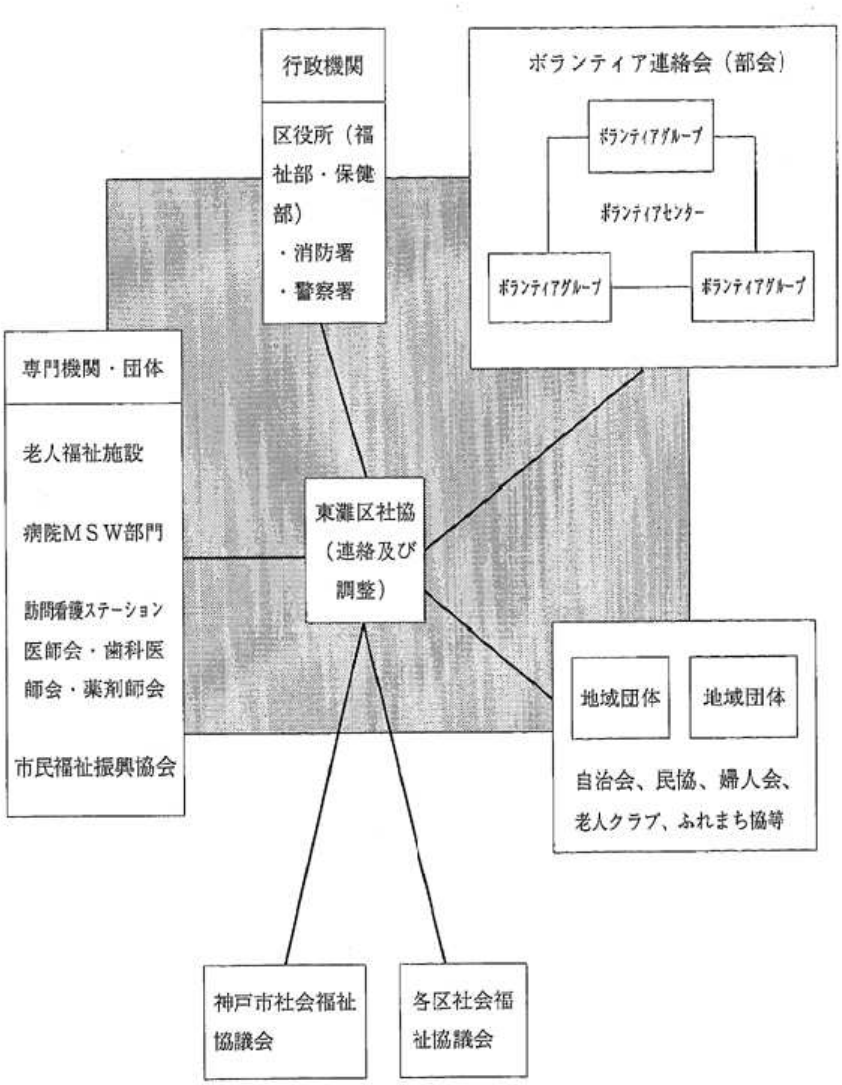
（6）東灘区地域ケアネットワーク会議の充実

東灘区社会福祉協議会に平成3年8月より、高齢者の保健・福祉・医療に関係する行政機関、専門機関・団体、ボランティアグループによって構成する「東灘区地域ケアネットワーク会議」を設置。震災以前から月例会を開催し、情報交換やケース検討を中心とした活動を重ねてきたが、震災時、十分な連携をとって機能することができなかった。その反省から、平成7年度は、機関・団体相互

の実質的で緊密な連携をはかることを目的に、「機関・団体紹介冊子」を作成するとともに、8年度事業計画においては、35を越える機関・団体が協力して交流イベント（平成8年10月12日開催予定）を開催するべく準備作業を重ねてきた。今後の超高齢社会に向けて地域ケアの視点から公・私にわたる関係機関・団体のネットワークを形成することを目的とした会議であり、区社協の最も重要な連絡調整活動である（図表5）。

同会議の成果として、区医師会がその組織を民生委員協議会地区（15地区）に合わせて再組織化し、「在宅医療窓口担当医」を各地区に設置したこと、また、区医師会が、ボランティアグループや民生委員と連携をはかり、各地区の医院において「ふれあいサロン」（高齢者のミニデイサービス）の運営にも取り組んでいることがあげられる。

（図表5）東灘区地域ケアネットワーク会議のイメージ図
（区社協を核とする保健・医療・福祉のネットワーク）



事業概要表

事　業　名	事　業　概　要	8年度への課題・展望
1．被災高齢者等福祉活動 （1）ひとりぐらし老人友愛訪問活動の推進	○ひとりぐらし老人等の安否確認・話し相手活動等。 仮設住宅地域については、新規に組織化。	●相談活動の充実（ボランティアの資質の向上） ●震災復興住宅への入居に対応する活動の組織化

（平成7年度）

要訪問老人数	グループ数	活動者数	訪問回数	活　動　内　容					
（平成8年3月現在）			（年間）	安否確認	話相手	相談	家事援助	介助等	計

	1，547	105	317	25，825	10，946	13、478	651	402	68	25，545

（2）給食サービスの推進	○ひとりぐらし老人等に対する会食または配食による給食サービス。 （平成7年度） 実施団体数：9 実施回数：102 参加老人数：3，865 参加ボランティア数：988	●仮設住宅地域での活動 ●震災により活動が停止したグループの活動の復興
（3）その他	○歩行杖交付事業　6年度交付数　789本 7年度交付数　724本 ○その他、車椅子、エアーマット等の貸出し事業を実施	
2．民生委員・児童委員活動の推進	○仮設住宅をはじめ被災地域における地域福祉活動の核として、民生要員活動を推進する。 ・民生委員・児童委員活動の支援15地区（209人） ・心配ごと相談所の運営　第1・3火曜日開催 （平成7年度実施回数　20回）	●心配ごと相談所の充実
3．ボランティア活動の育成・振興 （1）ボランティアセンター運営管理（平成7年3月20日開設） ※ボランティアセンターの充実	○各種相談・情報提供の件数（平成7年5月～12月）　2，444件 ○ニード相談（平成7年度）　476件 ○ボランティア登録数（平成7年度）　個人566人・グループ75団体 ・コンピューター一式、電話、コピー、キャビネット、リソグラフ、その他事務機器等必要な備品・設備の充実	●ボランティアコーディネート業務の確立 ●ボランティア情報システム ●ボランティアセンターを拠点とした介護電話相談事業開設　（総合相談機能の充実）
（2）ボランティアグループ助成	○ボランティアグループによる被災者の生活支援や元気回復を目的とした事業・活動に要する経費を助成 （平成7年度）10団体	●区社協独自助成の充実 ●他の活動助成制度との調整 ●活動のソフト的支援
（3）ボランティア講座・研修の実施		●在宅ケアボランティアの養成研修 ●講座修了者の適切なコーディネート

月日	講義内容	講師	参加者数
H7．6．24	もっとボランティア講座	（財）ＯＡＡ　五十嵐恭子 関西学院大学　大和　三重	25名
7．15	訪問ボランティア講座	大阪ボランティア協会　名賀　亨	51名
22		頌栄専門学校　平松　幸子	49名
8．5	ボランティア入門講座	（財）ＯＡＡ　五十嵐恭子	33名
12		関西学院大学　Ａ．Ｈニノミヤ	25名
12．2	ヤングボランティア講座	県ボランティア協会　海士　美雪	20名
H8．2．9	友愛訪問ボランティア研修	千山荘施設長　鷲尾　邦夫	33名
3．8	六甲アイランドボランティア交流会	（財）ＯＡＡ　清水　勲夫	65名
3．15	友愛訪問ボランティアのつどい	大阪ボランティア協会　早瀬　昇	200名
計			501名

4．在宅福祉サービス推進 （1）入浴サービス事業 （2）移送サービス活動	○移動入浴車によるねたきり高齢者等の入浴サービス （平成7年度）入浴延人員15名　ボランティア参加延人員　75名 ○仮設住宅等に居住する公共交通機関による移動が困難な高齢者・障害者に対し、車椅子リフト付車両による移送サービス実施　（平成7年11月～平成8年3月） 移送サービス相談件数　28件 ボランティア派遣件数　19件	●活動ボランティアの育成 ●ＰＲの充実
5．被災者生活支援地域福祉活動助成	○地域団体による被災者の生活支援や元気回復を目的とした事業・活動に要する経費を助成・ふれあいのまちづくり協議会活動支援　3か所 ・ふれあいセンター活動支援　13か所	

	・給食サービスグループ活動支援　10グループ	
6．被災者等援護活動推進	○生活福祉資金貸付　（災害特別）　3，789件　（591，600，000円） （一　般）　6件　（5，173，000円） ○要保護者緊急援護資金貸付　412件　（13，218，956円） ○善意銀行運営　預託件数　35件　（2，008，002円） 払出件数　28件　（3，795，665円）	
7．広報・調査・連絡調整活動の推進 （1）広報誌発行（全戸）	「区社協だより東灘」の発行　7年9月　86，000部	●年2回の定例発行 ●ボランティア情報誌の発行
（2）東灘区地域ケアネットワーク　会議の運営	○高齢者の保健・福祉・医療に関係する行政機関・専門機関・団体によって構成され、地域ケアの視点から情報交換と業務連携をはかる。（月例会開催） （平成7年度）参加団体数　35団体、開催回数10回	●協働作業の実施 ●地域レベルの交流推進
8．共同募金運動の推進の協力	（1）赤い羽根共同募金　実績額（8，773，000円） （2）歳末助け合い募金　実績額（3，674，482円）	●共同募金会との連携 ●実績額の大幅減少（平成7年度5割以上の減少）への対応 ●共同募金運動50周年の展開
9．歳末たすけあい募金配分事業平成7年12月	○被災者支援活動を行う福祉団体等を中心に配分 交通遺児家庭　10　地域型仮設住宅　6 社会福祉団体　6　友愛訪問グループ　74 ふれあいセンター　13　給食サービスグループ　16 地域福祉センター　14　計　139　（5，300，000円）	●募金実積の低迷が予想される
10．その他の地域福祉復興事業 （1）ボランティア連絡会事務所の設置	○区内で活動するボランティアグループの連携と協働をはかり、活動の拠点となるプレハブ事務所を設置。	
（2）仮設住宅ひとりぐらし老人台帳整備	○仮設住宅地域におけるひとりぐらし老人友愛訪問活動の活性化と効率化に資するため、コンピューターを使って台帳を整備。	
（3）六甲アイランド仮設住宅入居者保健・福祉ニーズ調査	○六甲アイランド仮設住宅に入居する高齢者・障害者の生活実態及び保健・福祉ニーズを調査。 平成7年5月9日～5月31日 調査総数　2，090戸　調査件数1，118世帯	
（4）小・中学校と地域との交流事業	○今回の震災により避難所となった小中学校に対し、地域住民と学校との結びつきをより強いものとするため、交流事業を推進 東灘区内の小学校14校　中学枚7校　養護学校1校	
（5）東灘区頑張ろう映画会開催（保健所共催）	○被災者を元気づけ、健康教育を推進するため、映画会実施。 平成8年2月24日　生活文化センター　参加人員　300人	

(c)1997神戸市社会福祉協議会, 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 (デジタル化：神戸大学附属図書館)

復興活動一年目の記録 : 社会福祉協議会の震災被災者支援活動 : 1995.4-1996.3 - 発行:神戸 : 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 : 神戸市社会福祉協議会, 1997.1. 請求記号:震災-7-379. p30-37

灘区社会福祉協議会

1．灘区のまちの概要

北に六甲山、摩耶山、南に大阪湾をひかえ、海と山に囲まれた灘区は、山すそは閑静な住宅・文化地域を形成し、中央部は住宅と商業の混在地域となっており、南部は神戸製鋼所をはじめ灘の酒で知られる酒造メーカー等が立ち並ぶ工業地域となっている。
昭和45年当時、約17万人であった人口は、その後徐々に減少し、震災前の平成6年では12万5千人であった。また、高齢者比率も、全市平均が11．5%に対して14．2%と高く、急速に高齢化が進んでいた。
しかしながら、まちとしての成熟度は高く、交通の便や、生活の利便性も高いことから、区民の灘区のまちに対する愛着心は強く、住よいまちとの意識が高い。

2．大きな被害を被ったまち

平成7年1月17日の早朝、阪神間を襲った直下型大地震は灘区をも直撃し死傷者が2，000人を越え、全半壊した家屋が区内の全家屋の3分の1の約18，500戸にも達するほど極めて大きな被害を出した。
震度7の激震が市街地の中央部を東西に走ったため、阪急電鉄と阪神電鉄の軌道の間に挟まれた地域が大きな被害を受け、地域によっては家屋の倒壊率が100%近くもあるところがあったり、火災による被害もでた地域もあった。
南部の工業地帯でも、多くの企業で事業場が全壊したり、設備に大きな損傷を受けたりし、また、道路の亀裂、高架の落下などの被害があった。
また、電気、上下水道、ガスなどのライフラインも壊滅的な打撃を受け、鉄道もＪＲと阪神電鉄の高架部が壊れ、長い間遮断される状態が続いた。

3．混乱に陥った区民の生活

未曾有の被害を受け、区民の生活はたちまち混乱に陥った。学校や保育所、地域福祉センターなどは避難者で溢れかえり、避難所に入れなかった被災者は公園や空地などにテントを張って避難した。
ピーク時には区内の全域に74カ所の避難所ができ、人口の3分の1にあたる4万人を越える区民が避難をしていた。
その後、避難所で不自由な生活をしていた区民も自宅の補修ができたり、3月から順次入居が始まった仮設住宅に移ったりして徐々に減っていった。
しかし、区内では適当な仮設住宅の建設用地が少なかったこともあって、多くの区民が区外の仮設住宅等に転出を余儀なくされ、こうしたこともあって灘区の人口は、震災前に比べ3万人近く減少した。

4．震災後の区社協の活動

震災直後から、区をはじめとする行政機関は、物資の配給、900体を地える遺体の収容、避難所の運営、区民からの問い合せに対する対応、義援金の支給等に忙殺される日々が続いたが、区社協も行政と一体となって区民の救援活動にあたってきた。
混乱から少しずつ落ち着きを取り戻すにつれ、区社協としても独自の活動ができるようになり、被災者の生活支援を中心として次のような行動を行ってきた。

（1）ボランティア活動の推進

今回の震災では全国から駆け付けてくれた大勢のボランティアが被災者の支援に大きな役割を果たした。このようなボランティアへの関心の高まりをきっかけとして、地域に根差したボランティア活動を積極的に推進してきた。

1）ボランティアセンターの設置

区内におけるボランティア活動の拠点として、平成7年4月末に区社協の中にボランティアセンターを設置した。センターとして、ボランティアの登録や需給調整の業務をはじめボランティアに関する相談に応えたり、各種の講座を開きボランティアの養成、ボランティアに関する情報の提供や活動助成、ボランティア相互の連絡、調整などボランティア活動を支援していった。

2）ボランティアグループ共催による「がんばろうＮＡＤＡ祭」の開催

ボランティアセンターが中心となって区内で活動しているボランティアグループが合同で、被災した区民を励まし、復興に向けて希望をもち活力としてもらうため「がんばろうＮＡＤＡ祭」を平成7年8月27日に小学校の校庭で開催した。
イベントはステージ、フリーマーケットのほか屋台や子供の広場、車椅子体験コーナー、建築相談等多彩な内容のものとなり、3，000人もの区民が参加。楽しい一時を過ごした。

（2）仮設住宅の見守り活動

仮設住宅への入居が進むにつれ、隣近所の付き合いがまだできていないなかで、だれにも見取られず寂しく亡くなるいわゆる「孤独死」が相次ぎ、仮設住宅における大きな問題となった。そこで、この対応が急務となりボランティアグループによる訪問活動や民生委員児童委員を中心とした友愛訪問グループによる活動、ふれあい推進員の設置など仮設住宅のひとりぐらし老人等に対する見守り活動を行ってきた。

1）ボランティアグループによる訪問活動等

「孤独死」を防ごうと、各ボランティアグループがボランティアセンターを中心に相互に連携をとり、それぞれ分担しながら、仮設住宅の訪問活動を実施していった。

その中で、ひとりぐらし老人や障害者のいる家庭等に対しては、頻繁に訪問活動を行い安否確認を行うとともに、玄関にスロープを付けたり、浴室に踏台を設置するなど入居者が生活しやすいようにさまざま改善をしていった。また、できるだけ早く住民相互に支えあえるコミュニティを形成していくため、自治会づくりを側面から支援していった。

2）民生委員児童委員を中心とした友愛訪問グループによる活動

今回の震災で大きな被害を受け一時活動が停止状態であった友愛訪問グループも、少しずつ活動ができる人が戻ってきたのにともない、グループを立て直し、従来の在宅のひとりぐらし老人への友愛訪問活動を再開するとともに、仮設住宅への友愛訪問活動を行っていった。

3）ふれあい推進員によるひとりぐらし老人などの見守り支援

仮設住宅に住む人の中から、民生委員児童委員などの福祉関係団体と協力、連携を図りながら福祉活動を行うふれあい推進員を設置し、仮設住宅のひとりぐらし老人などの見守り等より身近かなところでの活動を行っていった。

（3）ふれあい交流活動の推進

これからの生活に対する不安などからどうしても気持ちが暗くなりがちになっている被災者の心を和まし、生活の再建に向けて意欲をもってもらえるよう、被災者相互あるいは被災者と周辺住民とのあたたかいふれあい交流活動を支援した。

1）ふれあいセンターの設置運営支援

一定規模以上の仮設住宅にふれあい交流の場としてふれあいセンターを設置して、ここを拠点として仮設住宅自治会やボランティア、周辺住民が一緒になって、手芸やカラオケなど趣味の教室、健康教室、茶話会などさまざまな交流活動が行っていけるよう支援していった。

2）ふれあいのまちづくり協議会の活動支援

ふれあいのまちづくり協議会が、仮設住宅の入居者と周辺住民とのふれあい交流を図るため、一人ぐらし老人の給食会やビデオ上映会、お料理教室、屋外コンサートなどの福祉交流事業を定期的に実施するのを支援した。

3）年末年始被災者支援

被災者にとってはじめての正月を皆で楽しく迎えてもらおうと、それぞれの地域や仮設住宅で元気づけの催しの実施を支援した。18カ所の地域や仮設住宅では年越しそばやおせち料理の炊き出しやおもちつき、カラオケ大会等やさまざまな楽しい催しを行った。

今後とも仮設住宅の入居者をはじめ被災者の生活再建を側面から支援していくとともに新しい福祉ニーズに対応し、今回の震災で得た教訓を活かした安心して暮らしていける地域福祉社会づくりに取り組んでいきたい。

（仮設住宅への訪問活動）

事業概要表

事　業　名	事　業　概　要	8年度への課題・展望
1．年末年始被災者支援事業	ふれあいのまちづくり協議会、ボランティアグループ、仮設住宅自治会及び周辺の自治会が年末年始に実施する被災した区民を励ます各種事業に対する助成を行った。 実施団体　18団体 事業内容　別紙のとおり	
2．仮設住宅防火対策事業	灘消防署と協力し、仮設住宅において初期消火等の訓練を行うとともに防火バケツを設置することにより、防火の啓発を行った。	
3．仮設住宅入居者との交流活動	仮設住宅入居者と近隣住民との各種交流活動等、モデル的な活動を実施している『あんぱんの会（篠原ふれあいのまちづくり協議会）』に対する活動支援を行った。 内　容：第1回　7／31 カラオケ・ゲーム・手芸（29名参加） 第2回　8／28 ビデオ上映会（52名参加） 第3回　9／30 お料理教室（33名参加） 第4回　10／28 論投げ大会（34名参加） 第5回　11／30 健康づくり講演会（50名参加） 第6回　12／15 紅白の折鶴を仮設住宅へ配布 第7回　1／6 初春おたのしみ会（108名参加） 第8回　2／9 ケガの手当て講習会（76名参加） 第9回　4／10 ふれあいコンサート（100名参加〉	
4．ボランティアセンターの運営	4月から開設し、ボランティアの登録・派遣・相談業務を行い、被災した区民の自立を支浸するための各種ボランティア活動の支援を行った。 ボランティア（グループ）の登録　178件 ボランティア派遣依頼　352件 登録ランティア（グループ）の派遣　870件 ボランティアに関する相談　1，145件	
5．がんばろうＮＡＤＡ祭の開催	区内で活動するボランティアグループが集まり、被災した区民を励まし、復興にむけての希望と活力としてもらうための復興祭として開催。 日　時：平成7年8月27日　午後3時～9時	

	場　所：稗田小学校グラウンド 内　容：ステージイベント、フリーマーケット ボランティアによる屋台、子供広場、建築相談 参加者：約3，000人 ボランティアグループ　9グループ	
6．訪問ボランティア講座の開催	ボランティア活動に興味がある方で、高齢者・障害者のご家庭を訪問し、話相手や家事の援助をするボランティアの養成講座を開催した。 日　時：平成7年10月5・12・17・24日 午後1時30分～3時30分 場　所：王子地域福祉センター、大和ふれあいセンター 内　容：第1回　講義『さあボランティア活動をはじめよう』 （財）ＯＡＡ事務局次長　清水勲夫氏 講義『高齢者とのよりよい接し方』 光華女子大学教授　　藤田綾子氏 第2回　訪問体験学習（大和公園仮設住宅） 第3回　体験発表 講義『体験学習から学ぶもの』 光華女子大学教授　　藤田綾子氏 第4回　実習『障害者の外出介助の方法』 市民福祉人材センター 講義『私たちのグループのボランティア活動』 ボランティアグループ六甲 ほほえみ灘班 参加者：37名	
7．手話入門講座の開催	聴覚障害者に対する理解をより深め、互いに会話を楽しめるような人を養成するための入門講座を開催した。 日　時：平成8年2月22日～　毎週木曜日　　全10回 午後1時30分～3時30分 場　所：東部在宅障害者福祉センター　2階会議室 講　師：灘区聴力言語障害者福祉協会・灘手話の会 参加者：35名	
8．ボランティアステップアップ　講座の開催	灘区ボランティアセンターに登録しているボランティア及びボランティアグループのメンバーを対象に、震災後1年を経過しマンネリ・燃え尽き等活動意欲の減退といった局面に備えて、活動意欲や資質の向上を図るための講座を開催した。 日　時：平成8年3月4日　午後1時～4時 場　所：東部在宅障害者福祉センター　2階多目的室 内　容：講義『これからの心のケア』 関西カウンセリングセンター　カウンセラー　吉備素子氏 講義『気長にボランティア』 創造教育研究所長　巡　静一氏	
9．第9回灘福祉社会セミナー	震災体験を生かし、区民ひとりひとりがあの日をのりこえていくためには何が必要か、そして今何ができるかを考える機会としてもらい、被災した区民を励ますために開催。 日　時：平成8年3月28日　午後1時30分～3時30分 場　所：六甲道勤労市民センター 内　容：1）『津軽三味線』高橋尚山氏 2）講演『人間を考える－あの日をのりこえて－』 作家　藤本義一氏 参加者：270名	
10．ふれあいセンター設置運営支援	仮設住宅に住む高齢者等の心のケア・自立を図るため、ふれあい交流やコミュニティ形成及びボランティア活動の拠点としてふれあいセンターの設置を進めるとともに、センターの積極的かつ円滑な運営について支援を行う。	積極的に各種事業を展開し、住民同志・近隣との交流・自立活動の場としての利用を進める

	また、区内のふれあいセンター管理運営委員会相互の交流や情報交換会を開催した。 区内ふれあいセンター設置数　　8ケ所 交流・情報交換会 日　時：平成8年3月8日　午前10～12時 場　所：灘区役所会議室 参　加：各ふれあいセンター管理運営委員会役員　15名	
11．区社協だより 『ふれあいなだ』第2号の発行	被災者の自立に向けての支援活動や地域住民と仮設住宅入居者との交流活動の紹介や主な福祉施設の開館情報などを掲載し、地域福祉の再生へのステップとしてもらう。 Ａ4タブロイド版カラー印刷（4頁）45，000部発行 12月1日付け　新聞折り込みにより全戸配布	
12．児童館親子クラブ合同クリスマスジョイントコンサート	児童館の親子クラブに通うお母さんと子供が一堂に集まり、相互の交流と親睦を図りながら、子育てを通じた地域のコミュニティを育むことにより、被災した児童の心のケアを行う。 日　時：平成7年12月14日　午前10時～11時30分 場　所：シーガルホール 内　容：『げんきジム』によるコンサート サンタクロースからのプレゼントなど 参加者：親子クラブに通う親子　230組500名	表面上わかりにくい児童の心の傷をいかにケアしていくか。

年末年始被災者支援行事一覧

実　施　主　体	日　時	内　　容
高羽ふれあいのまちづくり協議会	12／26 ～2／29	仮設住宅・被災地域年末警戒 年末ひとりぐらし老人給食会・茶話会・友愛訪問カラオケ大会
鶴甲ふれあいのまちづくり協議会	1／1 1／15	『初日の出』被災者を招いて新春を祝い復興を誓う会 どんど焼
岩屋ふれあいのまちづくり協議会	1／28	岩屋地区内仮設住宅住民とともにクリーン作戦の実施
六甲山ふれあいのまちづくり協議会		地区内被災者宅の訪問・激励
新在家ふれあいのまちづくり協議会	1／28	新在家地区新年の集い
西郷ふれあいのまちづくり協議会	1／22	新年の集い
王子ふれあいのまちづくり協議会	1／10	初春交流の集い
篠原ふれあいのまちづくり協議会	1／6	正月おたのしみ会
成徳ふれあいのまちづくり協議会	1／17	被災者激励大会
灘南仮設住宅自治会	12／23～24	クリスマスの集い
大和公園仮設住宅自治会	12／28	年越しそばとおせち料理の炊き出し
高羽仮設自治会	12／28	おせち料理の炊き出し・もちつき
西灘公園仮設住宅自治会	12／30	年越しそばとおもちつき
仮設王子公園自治会	12／31	仮設住宅敷地内大そうじ 年越しそば炊き出し ひとりぐらしの住民との交流会
灘中央地区ボランティア （大石南仮設住宅内）	12／24 25	もちつき大会 クリスマス会

	31 1／1	年越しそば・チャンコ鍋炊き出し 元旦祭（お雑煮の炊き出し）
ひまわりネットワーク （篠原仮設住宅内）	12／24～1／15 1／18	年末食材の炊き出し ひとりぐらし老人のふれあい訪問 ふれあいコンサート
灘南部自治会	12／24 12／24	灘南部自治会児童館クリスマス会 灘南部自治会老人いこいの家クリスマス会

(c)1997神戸市社会福祉協議会, 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 (デジタル化：神戸大学附属図書館)

復興活動一年目の記録 : 社会福祉協議会の震災被災者支援活動 : 1995.4-1996.3 - 発行:神戸 : 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 : 神戸市社会福祉協議会, 1997.1. 請求記号:震災-7-379. p38-43

中央区社会福祉協議会

1．被災状況

神戸市中央区は市内9区の中で中央部分に位置し、ＪＲ三宮、元町駅の南側を中心に中央都心部を形成しており、また、ＪＲから六甲山麓にかけては古くから開けた住宅地域となっている。商業の中心として就業者も多いことから昼間の人口は30万人を超えている。近年、住民の郊外等への転居が進み中心部の人口が減少するドーナツ化現象が問題となっているが、ポートアイランドの埋め立てやハーバーランドの再開発等による若干の回復もあり、震災前の人口は約11万人、世帯数は約5万2千世帯となっていた。

今回の震災は神戸に未曾有の被害をもたらしたが、特に老朽化した建物が多く残っていた旧市街地では、地震による被害とその後発生した火災による被害が重なりさらに大きなものとなった。中央区でも建物等の被害は大きく商業ビルや市営住宅等の集合住宅、個人住宅の多くが被害を受け、学校や公園等に避難した避難者の数はピーク時で90カ所、約3万9千人にのぼった。

一方、震災直後から避難者のための仮設住宅の建設が始まり、中央区に建設された仮設住宅は、ポートアイランド内の埋立地を中心とした約3，100戸を始め、大倉山や旧市街地内の小規模公園等に約700戸、全体で約3，800戸となっている。これらの仮設住宅のうち、一般抽選で入居したポートアイランド第5～第7仮設住宅の1，960戸を除く約1，840戸が高齢者、障害者等の優先入居で提供されており、結果的に高齢者の多い住宅となった。これらの住宅では約5割が独居者で、住宅に閉じこもりがちで近所付き合いもあまりないことから、昨年から新聞等で孤独死の問題として大きく取り上げられている。

そこで、仮設住宅に閉じこもりがちな高齢者に住民同士の交流の場を提供する取り組みとして、仮設住宅の自治会等が中心となってふれあいセンターなどで地域交流事業等が行われ、また、ボランティアグループによる独自の訪問やイベント開催等の支援も行われている。

中央区ボランティアセンターでも民生委員や地域団体、登録ボランティアの協力を得て、テントによるお茶会や訪問事業を行って地域交流を図っているところである。

表1　【被害状況】

区　分	死亡者	建　　物		避　難　者		罹災証明発行数	
		全壊・全焼	半壊・半焼	避難所数	避難者数	全壊・全焼	半壊・半焼
中央区	239	6，411	6，658	90	39，090	25，462	28，574
全　市	4，484	74，396	55，218	599	236，899	170，933	128，746
備　考	H7／11／13現在	H7／12／21現在		ピーク時		H8／3／29までの累計	

表2　【中央区内の仮設住宅設置状況】

名　　称	戸　数	名　　称	戸　数	名　　称	戸　数
脇　ノ　浜	38	ポートアイランド第6	800	筒　井　公　園	31
脇　ノ　浜　第　2	30	ポートアイランド第7	730	雲　中　公　園	31
大　倉　山	169	市　民　病　院　前	34	神　若　公　園	55
ポートアイランド第1	400	神　仙　寺	23	東　川　崎　公　園	47
ポートアイランド第2	400	中　山　手　7　丁　目	16	王　子　南　公　園	71
ポートアイランド第3	130	諏　訪　山　公　園	70	生　田　川　公　園	24
ポートアイランド第4	176	熊　内　町　1　丁　目	20	生　田　町　公　園	24
ポートアイランド第5	430	春　日　野　公　園	47	合　　計	3，796

2．被災者支援の取組

中央区社会福祉協議会（以下「区社協」という。）ではボランティアセンターの事業を中心に、避難所・仮設住宅等の被災者の支援を行ってきた。

（1）中央区ボランティアセンターの設置、運営

今回の震災は日頃の予想や備えをはるかに超えた大規模な災害であったが、中央区では、本庁各局からの応援職員が少なかったこともあり、他都市からの応援職員が派遣される4月まで各避難所に常駐の職員を派遣することができず、また、職員による定期的な巡回も行えなかった。

このような状況の中で地震の起こった1月17日から、個人ボランティアが中央区役所に集まり始め、1月28日には区役所内のボランティアにより自然発生的に「中央区ボランティア」が発足、コーディネート機能をもったセンターとなり、ピーク時には1日300名にも達したその活動が始まった。

中央区ボランティアは各避難所からの要請により常駐のボランティアを派遣し、区内の全避難所を隔日で巡回した。特に巡回にあたっては、自分たちで作ったミニコミ誌、市の震災対策広報を配付すると同時に、避難所から物資の要望や行政に対する質問・要望を聞いて帰ったので、結果として避難者と行政をつなぐ重要な機能を果たした。その他、救援物資の搬出、搬入、水汲み、炊き出し、屋根のシート張り、引越し等多岐にわたる活動を5月半ばまで続けた。

このようなボランティアの活動は大きな力となったが、実際、人手が必要な場所へ直接活動者自身が出向いて活動するボランティアの活動は有効であり、行政の救援活動を補完するものであった。

この活動を引き継ぎさらに発展させるため、5月15日、区社協に中央区ボランティアセンターを設置し、常時2名のコーディネーターを置き、被災者支援のボランティア活動を続けている。このボランティアセンターの主な活動は以下のとおりである。

1）ボランティアの登録・コーディネート

震災直後から中央区ボランティアセンターが発足するまでの間に、中央区ボランティアとして登録・活動したボランティアは延べ約4，000名にのぼる。

また、中央区ボランティアセンター発足から平成8年3月末までの間に、登録したボランティア団体は14、個人は452名、要請を受け実際にボランティアを派遣した件数は累計で390件となった。

表3　【中央区ボランティアセンターボランティア活動状況】

（平成7年4月1日、平成8年3月31日の累計）（件数順）

順位	活　動　内　容	件　数	順位	活　動　内　容	件　数
1	引起し手伝い	124件	7	避難所手伝い	9件
2	外出・通院介助	53件	8	大工仕事	8件
3	住宅の片付け	39件	9	荷物運び	5件
4	イベントの手伝い	14件	9	家事援助	5件
5	家具の移動	12件		その他	111件
6	屋根シート張り	10件	合　　計		390件

（注）・集計した件数は期間中のもので、震災から平成7年3月31日までのものは含んでいない。

・集計件数は個別に依頼されたもののみの件数で、別に継続的に約30人を訪問し、安否確認、家事援助等をしている。
また、件数には仮設住宅支援のお茶会等のイベントへのボランティア依頼分は含んでいない。

2）仮設支援ボランティア連絡会の開催

被災者の仮設住宅での生活を支援しているボランティアグループや関係行政機関の連絡会を月1回開催し、訪問している仮設住宅が重複しないよう、また、支援のための各種催しやイベント等の情報を交換し相互協力体制の確立を図っている。

3）愛の輪テント、ほんわかテントの実施

仮設住宅でボランティアにより簡易テントを設置してお茶会や各種ゲーム等を月1回実施し、住宅に閉じこもりがちの高齢者等に地域内で交流の場を提供することにより、仮設住宅でのコミュニティ形成、自立への支援を行っている。

神仙寺、脇ノ浜第1、脇ノ浜第2、大倉山、春日野公園、筒井公園、雲中公園、神若公園、王子南の各仮設住宅で実施している。

（ほんわかテント実施風景）

4）わくわくひろばの実施

ポートアイランド第5～第7の仮設住宅は埋め立てが竣工した状態のままで建設されているため、近くに子供たちが遊べるような施設が全くない状態となっている。そこで、ボランティアによりテントやふれあいセンター（集会所）を利用して、月1回遊びの指導等を行い、これらの子供たちが安心して遊べる場を提供している。

5）仮設住宅案内表示板の設置

仮設住宅では、その仕様により住宅の号棟表示が見にくいところがあり、住民から仮設住宅内が不案内との声を聞いた。そこで、ボランティアの協力を得て仮設住宅に干支のイラストの入った号棟表示板を設置し、仮設住宅での生活を支援した。

6）インターネット研究会の開催

神戸市のインターネットへの情報提供が大きな話題となったが、新しい情報伝達の手段としてインターネット、パソコン通信を研究するため、ボランティアを中心とした「インターネット研究会」を2週間に1回程度開催している。
現在、インターネットに中央区ボランティアセンターの試験情報を提供している。
アドレス　http://www1.meshnet.or.jp/kobe-cvc/

（2）ふれあい訪問事業

ポートアイランド内の第1から第4までの仮設住宅は、高齢者、障害者等の優先方式で入居が決定されたため、平成7年8月の調査で、対象戸数1，106戸のうち調査できた959戸でみると、60歳以上の老人世帯が73．8%、65歳以上の世帯が51．7%、65歳以上の独居老人の世帯も実に34．1%となっている。
平成7年の夏頃から仮設住宅での孤独死が問題となっているが、コミュニティやボランティア等による見守り体制ができるまで、登録ヘルパーによる安否確認等訪問事業を行っており、現在は対象をポートアイランド内全部の仮設住宅に対象を広げ行っている。
1）対象　ポートアイランド内ひとりぐらし老人等
2）訪問員　ふれあい訪問員（市民福祉振興協会登録ヘルパー）12名
3）訪問内容　安否確認、福祉ニーズ調査、高齢者福祉施策のＰＲ等

（3）ボランティア団体、仮設住宅自治会等への特別助成

震災、避難所、仮設住宅と慌ただしく環境が変化していく中で、コミュニティが崩壊し孤立化している高齢者等に新しい仮設住宅での交流を図るため、地域で交流事業を行っている団体等に助成を行った。
また、既存のひとりぐらし老人給食サービスグループ、ふれあいのまちづくり協議会等の被災者支援活動を促進するため、これらの団体に対し助成を行った。
1）対象活動　被災地域における被災者の支援活動
2）助成団体　仮設住宅自治会、ボランティア団体、ひとりぐらし老人給食サービスグループ、ふれあいのまちづくり協議会、区内児童館等
3）助成金　　5～10万円

3．1年間の取組を振り返って

今回の震災で倒壊した高速道路や百貨店等の集客施設の建物の状況からすると、震災が人出や車の少ない早朝であったことがせめてもの救いであり、もう2～3時間後に地震が起こっていたら死傷者の数は膨大なものとなっていたであろうと想像され、改めて大都市での災害の脅威を感じるとともに、その対策の必要性が痛感される。
また、ボランティア元年と称されるほどボランティアの活躍が目についた。行政の対応は常に公平性、平等性が求められており、区役所が避難者個人から寄せられる様々な要望に個別的に応えることが難しいのもやむを得ないところであったが、区社協、特にボランティアと結びついた活動の場合は柔軟な対応も可能であり、個別的、即応的に対応できたことが今回の被災者支援活動で大きな力となった。
これらの貴重な体験を今後の地域福祉の現場で生かしていくことができるよう、また、市民生活の安全、相互扶助の向上が図れるよう、市民啓発、福祉活動支援に務めるとともに全国に向けで情報提供していくことが必要であろう。

事業概要表

事 業 名	事 業 概 要	8年度への課題・展望
1．生活福祉資金災害援護資金貸付事業	今回の震災により被害を受け他からの資金の利用が困難な低所得世帯に対し、生活資金の貸付を行った。	

	（1）貸付実績　59件　49，600，000円	
2．ふれあい訪問事業	ポートアイランド内の仮設住宅の独り暮らし老人等に対し登録ヘルパーによる訪問安否確認を行った。 （1）対象　ポートアイランド内の仮設住宅の独り暮らし老人等 （2）訪問内容　安否確認、福祉ニーズ調査、高齢者福祉施策のＰＲ等	・地域による見守り体制が整うに従い事業を縮小し、8年度内に事業終了予定。
3．ふれあい推進員の配置	区内の仮設住宅50戸に1名の割合で配置し安否確認等を行っている。 （1）配置基準　仮設住宅50戸に付き1名配置（平成7年度末で28名に委嘱済、8年度内に69名委嘱予定。） （2）職務内容　安否確認、関係行政機関への協力、福祉団体との連携、協力等	・仮設住宅の退去者も多くなり高齢者等が取り残されていく状況にある。
4．仮設住宅自治会等への年末・年始お見舞い	歳末たすけあい募金から仮設住宅自治会等へ年末・年始のお見舞いをした。 （1）対象　仮設住宅住民又は同自治会 （2）内容　1）自治会が発足している仮設住宅（自治会）へ活動費の配付 2）自治会が発足していない仮設住宅へみかんの配付	
5．ボランティア団体、地域団体等への特別助成	被災地域で活動している各種団体等へ特別助成を行った。 （1）対象団体等　仮設住宅自治会、ボランティアグループ、ひとりぐらし老人給食グループ、あじさい給食サービスグループ、ふれあいのまちづくり協議会、区内各児童館 （2）助成金額　5～10万円	
6．各種イベント援助	（1）こうべわんぱくまつりの後援 震災で遊び場のない児童のため中央区のボランティアによるこうべわんぱくまつりが平成7年5月14日実施されたが、そのイベントの支援を行った。 ・神戸総合運動公園での祭りにボランティア約580人、市内の児童・保護者・約25，000人が参加した。 （2）ポー愛ふれ愛秋祭りの共催 ポートアイランドの仮設住宅で中央区、中央保健所、中央福祉事務所と共催で仮設住宅住民支援のためのイベントを平成7年11月3日行った。 ・内　容　おもしろ健康測定、中央区ふれあい相談、調理実習、美方郡社協による新鮮野菜の即売会、表札づくり等 ・参加者　約3，000人	
7．中央区ボランティアセンターの設置・運営	・設置日　平成7年5月15日 ・設置場所　中央区役所内 ・職員体制　事務局職員2名（兼務）、コーディネーター2名 ・事業内容　避難所、仮設住宅、高齢者・障害者世帯への支援活動 （1）ボランティアの登録・コーディネート ・登録　個人452名、団体14団体、ボランティア派遣件数390件 （2）ボランティアの養成・啓発 ・仮設住宅訪問ボランティア講座の開催 平成7年9月2～3日121名参加 ・中央区ボランティア講座の開催　平成8年2月29～3月21日　93名参加 ・ボランティアセンターだよりの発行　平成8年3月15日 （3）仮設住宅への各種支援 1）仮設住宅支援ボランティア連絡会の開催（月1回） 2）仮設住宅への引越し支援事業（神戸市土木協力会の支援で平成7年8月実施） 3）ふれあいテントの設置（集会所ができるまでの間、臨時の集会所として設置） 4）愛の輪テント、ほんわかテント事業（仮設住宅でテントによるお茶会実施、9カ所の仮設住宅で月1回実施） 5）わくわくひろばの実施（仮設住宅で遊び場の少ない児童のために月1回実施） 6）仮設住宅案内表示板の設置（号棟表示の見にくい仮設住宅にイラスト入号棟表示板を設置） 7）仮設住宅内掲示板の設置（住民のコミュニティ形成支援のため、掲示板の少ない仮設住宅に設置）	・7年度は避難所から仮設住宅と被災者を中心とした支援活動を展開してきたが、今後、当面は被災者が中心であるが徐々に在宅の高齢者等支援の体制に移行し、ボランティアの募集等行っていく必要がある。

(c)1997神戸市社会福祉協議会, 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 (デジタル化：神戸大学附属図書館)

復興活動一年目の記録 : 社会福祉協議会の震災被災者支援活動 : 1995.4-1996.3 - 発行:神戸 : 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 : 神戸市社会福祉協議会, 1997.1. 請求記号:震災-7-379. p44-47

兵庫区社会福祉協議会

1．兵庫区の被災状況

阪神・淡路大震災により、兵庫区では544名の尊い命が奪われ、また建物の被災状況は、全棟数32，720戸のうち全壊9，533戸、半壊8，109戸と倒壊率は53．9%にのぼり、神戸市全体の倒壊率30．8%を大きく上回った。
また、世帯数、人口は平成2年国勢調査の52，640世帯、123，921人から平成7年国勢調査では43，586世帯、98，856人へと大きく減少している。
仮設住宅についていえば、平成8年6月24日現在兵庫区内には17か所654戸の仮設住宅があり、入居者は1，056名、そのうち65歳以上の方は418名（39．6%）と高齢化率は非常に高くなっている。

2．兵庫区社会福祉協議会の取り組み

兵庫区社会福祉協議会では、被災者の支援活動として次のような取り組みを行った。

（1）　おとしよりのために

1）こどもふれあい訪問の実施

閉じこもりがちなひとりぐらし老人の多い仮設住宅を、区内の保育所や児童館のこどもたちが自分たちで作成した作品を持参して友愛訪問にまわったり、保育所で行う音楽会やクリスマス会に招待したりして、高齢者の気持ちを和ませた。
仮設への訪問は5回、保育所行事への招待は3回行い、おとしよりの方は自分の孫より小さなこどもたちに囲まれ初めは遠慮がちだったが次第にうちとけ、おとしよりと
こどもたち、おとしより同士の交流が深まった。

2）地震での被災者元気づけ事業

ふれあいのまちづくり協議会や給食サービスグループ等25団体が、被災地域住民や仮設住宅入居者等を対象として、もちつきや新年会、昼食会など元気づけ事業を実施した。

3）ひとりぐらし老人実態調査の実施

区内のひとりぐらし老人985人を対象に、震災後の生活実態や、震災が精神面・身体面にどのような影響を与えたかの実態調査を平成7年8月に行った。
区社協ではこの結果をまとめ、地域見守りに必要な事業の構築・充実を図るための貴重なデータとして活用している。

4）「ふれあい茶話会」の実施

どうしても閉じこもりがちになることの多い仮設住宅のお年寄りを中心とした、住民同士の交流やコミュニティづくりを促進するため、ボランティアグループや地域の各種団体と協力して仮設住宅で「ふれあい茶話会」を実施した。
最初は少なかった参加者も徐々に増えはじめ、特に拠点となるふれあいセンターができてからは楽しみに待つ方が多くなってきた。また、初めはお客さんとして参加していた方が、一緒になって声かけやお手伝いを積極的に行うようにもなり、住民主体の茶話

会に移行してきている。

（2）こどもたちのために

1）児童館統一行事の開催

こどもたちが復興に向けて元気に活動できるよう、区内の児童館8館が共同で行事を行った。まず、平成7年11月11日に鳥原水源地で行った「あおぞら児童館」には約90名が参加し、晴天のなかクイズラリーやクラフトコーナー、お楽しみ抽選会など自然の空気を十分に満喫した。

また、平成8年2月25日に兵庫区役所公会堂において行った「みんな集まれ！わいわい春の集い」には約300名が参加し、児童館指導員によるゲームで楽しんだり、東京からやってきた地球防衛隊のショーに歓声をあげたりしながら楽しいひとときを過ごした。

2）小地域被災児童のリフレッシュ事業

震災当時炊きだし等区内で活動した島根県大田市と連携し、平成7年7月29日から31日の2泊3日の日程で、兵庫区の児童と大田市の児童とが豊かな自然に恵まれた大田市で、地引き網、海水浴、キャンプファイヤー、灯籠流しなどの体験を通して交流を深め、被災児童のリフレッシュを図った。

兵庫区からは6年生25名が参加し、その後も手紙のやりとりや家族ぐるみでの行き来などの交流が続いている。

（3）兵庫区ボランティアセンターの運営

兵庫区では平成7年3月11日にボランティアセンターを設置し、当初は仮設住宅への引っ越しや荷物運び、屋根のシート張りなど直接震災に関連する活動を中心に被災者支援を行ってきたが、現在は高齢者・障害者の外出介助や家事援助、お話し相手などの一般的、継続的な活動が中心になってきている。

このような継続的な活動を支えてもらうため個人登録者を組織化し、現在定期的に区内の仮設住宅を訪問し、安否確認やお話し相手の活動を行う訪問ボランティアグループと、外出介助を中心に活動を行う外出介助ボランティアグループが活動中である。

事業概要表

事　業　名	事　業　概　要	8年度への課題・展望
1．ボランティア登録・相談事業 （1）ボランティア登録 1）個人登録 2）団体登録	平成7年度個人登録者140名 内訳　男性48名（10代9名、20代14名、30代7名、40代2名、50代4名、60代8名、70以上4名） 女性92名（10代27名、20代21名、30代8名、40代9名、50代12名、60代11名、70以上4名） 区内在住83名、市内在住32名、市外在住25名 10グループ　なお、平成6年度にこれ以外に5グループが登録している	個人登録者、特に区内在住者の拡大が必要 外出介助・家事援助等を行うグループの拡大及び組織化が必要
（2）相談業務	ボランティア活動についての種々の問い合わせや情報提供など延べ995件の相談が寄せられた	
（3）ニード受付	ボランティアの手助けが欲しいという高齢者、障害者などからの依頼を526件受け、ボランティア紹介、他機関斡旋等処理を行った。 主なニード内容 引っ越し101件、外出介助85件、荷物運び84件、家事援助50件、イベント手伝い37件、シート張り29件、見守り・話し相手18件 処理状況 ・ボランティア紹介324件、解消（依頼者からのキャンセル）137件、他機関斡旋35件	
2．ボランティア啓発推進事業 （1）ボランティア講習会	・第1国ボランティア入門講習会　5月17日　参加者28名 ・第2回ボランティア入門講習会　7月15日　参加者23名 ・ふれあいボランティア講座　7月27日～8月10日（3回）　延べ参加者84名 ・手話一日講習会　3月10日　参加者32名	参加者の確保が難しい。また、参加者を活動に結び付けるメニュー作りが必要

	・外出介助ボランティア講座　　3月7日～ 3月21日（3回）　　延べ参加者74名	
（2）刊行物の発行	センターの活動状況報告を中心に、ボランティア募集、区社協からのお知らせ、他のボランティアグループの活動紹介等を掲載。7年度は第2～5号を発行した。	
3．ボランティア活動支援事業 （1）助成金申請受付業務	全国社会福祉協議会や阪神・淡路大震災復興基金への助成金申請の受付業務を行った。 ・全国社会福祉協議会　10件 ・阪神・淡路大震災復興基金　77件	
（2）ボランティア保険の受付業務	ボランティア活動中の事故に備えるため、兵庫県ボランティア災害共済への加入を勧めているが、この受付業務を行った。7年度中に116件、777名分を受け付けた。	
（3）機材の貸し出し	ボランティアグループが活動するために必要となる印刷機、愛の輪テント、パイプ椅子、車椅子等の機材を随時貸し出した。	
4．ボランティア育成事業 （1）詰問ボランティアグループの結成支援	平成7年7～8月に実施した「ふれあいボランティア講座」の修了生を中心に訪問ボランティアグループ「さわやか」を組最化し、2チームに分かれて定期的に区内の仮設住宅を訪問し、安否確認、お話し相手の活動を行った。 また、月に1度メンバー全員での合同ミーティングも実施している。	メンバーの拡大が望まれる
（2）外出介助ボランティアグループの結成支援	平成8年3月に実施した「外出介助ボランティア講座」の修了生を中心に外出介助ボランティアグループ「ひまわり」を組織化し、外出介助の活動に結び付けた。	メンバーの拡大を図り、継続的な活動の実施が求められる
（3）ボランティアセンター登録者　交流会	ボランティア同士の横のつながりを深めるために開催した。 2月18日（日）　参加者30名	
5．その他の事業 （1）他機関、他団体との連携	区内の関係行政機関、各種団体、ボランティアグループなどと連携し、ネットワークの拡大を進めた。 主なものは以下のとおりである。 ・兵庫区ネットワーク連絡会　　月1回 ・仮設住宅対策連絡会　　月1回 ・兵庫区保健・医療・福祉連絡会議　　7年度は1回 ・コーディネーター研究会　　月1回 ・区内ボランティアグループとの連絡会　　2週間に1回	

(c)1997神戸市社会福祉協議会, 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 (デジタル化：神戸大学附属図書館)

復興活動一年目の記録 : 社会福祉協議会の震災被災者支援活動 : 1995.4-1996.3 - 発行:神戸 : 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 : 神戸市社会福祉協議会, 1997.1. 請求記号:震災-7-379. p48-56

北区社会福祉協議会

1. 初めに

平成7年1月17日午前5時46分、阪神・淡路地方を襲った「兵庫県南部地震」は、北区では、被災6区と比較しては被害は少なかったとはいえ、震災関連死亡者数12名、全半壊家屋3・412棟（平成7年11月現在）を数え、地すべりや崖くずれ、断水、ガス漏れなど多くの被害をもたらした。

このような中、民生・児童委員や自治会、婦人会など地域の方々やボランティアグループの方々など多くの区民が区内の避難所等はもとより、市街地の被災者に対し、炊き出しや救援物資の配布などの救援活動を行い、北区は被災地の支援拠点として活躍した。

また、北区は、神戸市域の約44%を占める広大な地域であり、整備途上の用地やニュータウン内の大規模公園等もあったため、仮設住宅が、鹿の子台に9カ所1，836戸、菖蒲が丘に2カ所97戸、藤原台に12カ所1，435戸、有野町・有野台に5カ所325戸、有馬に1カ所45戸、本区に19カ所2，100戸、合計　48カ所5，838戸建設され、西区についで2番目の戸数となっている。

仮設住宅への入居がすすむにつれ、北区内での支援の需要が高まり、各地域団体、ボランティアグループの支援も仮設住宅へと移行し、7年度の区社協の被災者支援活動も仮設住宅を中心に実施した。

2. 被災者支援事業

北区では、区と区社協が一体となって、仮設住宅入居者の生活状況や希望に合わせて、各種の支援事業を順次実施していった。

震災から半年となる平成7月17日には、仲間づくりと震災の疲れを少しでも和らげてもらうため、北神地域の仮設住宅入居高齢者を対象にリフレッシュ事業を実施した。フルーツ・フラワーパークに仮設住宅入居者320人をバスで送迎し、会食や神戸市混声合唱団の舞台、温泉入浴を楽しんでもらうとともに、　健康相談や各種行政相談コーナーも設けた。また、ボランティアグループの協力を得て、参加者相互やボランティアとの交流を図った。

さらに、11月には、島根県浜田市から、被災者を励ますために神楽の慰問団が来区するのをきっかけに、11日に藤原台で、また12日にはしあわせの村で文化祭を開催した。

それぞれ地元の有野中学校と鈴蘭台西高校の吹奏楽部による演奏や仮設住宅同好会による舞台に続き、「ヤマタノオロチ」などの勇壮な浜田岩見神楽が披露された。また、各ふれあいセンターでの趣味活動も活発となっていたため、その発表の場として、作品展を同時に開催した。当日は浜田市の海産物物産展や兵庫県宍粟郡の野菜市も開かれ、両日を併せて1，100人（仮設住宅の参加者900人）が参加した。

12月には、被災高齢者リフレッシュ事業として、8日、15日、22日の3回に分けて、仮設住宅の一人暮らしのお年寄りを有馬温泉に招待した。3日間で約300人（仮設住宅の参加者210人）のお年寄りに、健康についての講演、体操などのあと、温泉入浴や会食を楽しみながらリフレッシュしてもらった。この行事には北区老人クラブ会員による扶助グループにご協力いただき、一緒に話し相手になっていただきながら、高齢者同士交流を図ってもらった。

この他、年末支援事業として、仮設入居世帯に石鹸とみかんの配布を実施したほか、被災者支援活動を実施する地域団体への助成やふれあいセンターのない小規模な仮設住宅自治会への助成なども実施した。

（被災高齢者リフレッシュ事業）

表1　被災者支援行事一覧表

（　）は仮設住宅からの参加者（再掲）

支　援　事　業	実施日時	会　　場	参　加　者　数
被災者リフレッシュ事業	7．17	フルーツ・フラワーパーク	360名（320名）
ふれあい交流キャンプ	8．6～8．7	丹波少年自然の家	81名（3名）

納涼子ども大会	8．12 8．19	北文化センター すずらんホール	270名（12名） 400名（15名）
北区エンジョイウォーク	9．23	菊水山	700名（42名）
ふれあいＫＯＢＥ'95	10．10	みのたにグリーンスポーツホテル	1，000名（900名）
ふるさと再発見シリーズ	10．29	道場町	400名〈220名）
市民いもほり招待	11．5	長尾いも園	400名（220名）
げんき！いきいき秋まつり	11．11 11．12	有野小学校 シルバーカレッジ	400名（300名） 700名（600名）
被災高齢者リフレッシュ事業	12．8 12．15 12．22	有馬温泉	300名（210名）
北区環走ハイキング	12．10	丹生山系	800名（100名）
ふれあいＫＯＢＥ'96	1．23	すずらんホール	600名（100名）
ふれあい体験学習	2．17 2．18	ハチ高原	50名（4名）

3. ボランティアセンターの設立・運営

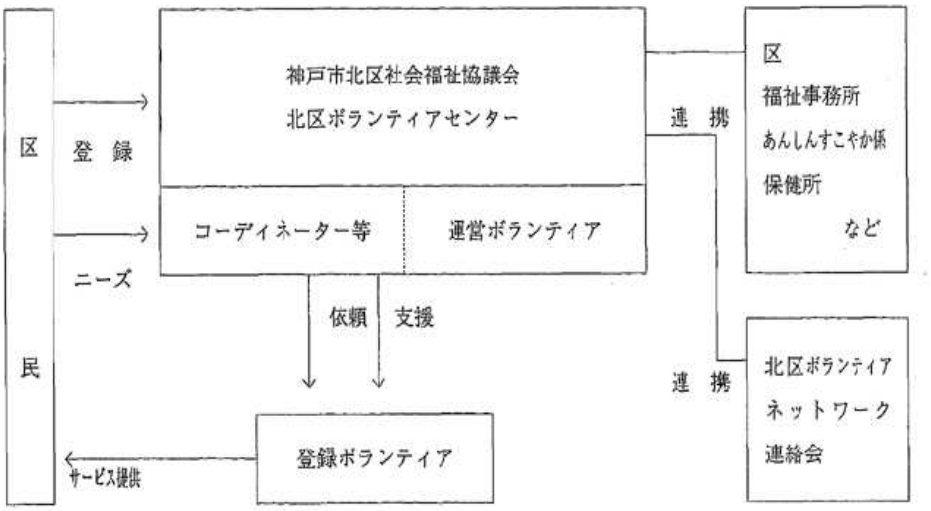
震災時には、北区にボランティアセンターはなく、その設立は、ボランティア活動の振興を図るため、長期的な観点からも重点的に取り組んでいかなければならない課題であったが、震災を契機に、その必要性はより認識され、また各区にもボランティアセンターが設立されつつあったことから、北区にもボランティアセンターをという声は高まっていた。

このような状況の中で、仮設住宅への入居が始まり、北区内での支援の需要が高まってきたのをきっかけに、独自で活動していた北区内のボランティアグループが集まり、「北区ボランティア情報交換の集い」が4月15日に開催された。その中で、各グループ間での情報交換ができるネットワークづくりの必要性が認識され、その事務局の機能を行政と民間の中間的立場で両者の橋渡しを行える区社協が担当するのが良いという意見が多く、その点からもボランティアセンターの設立は急務となっていた。

6月15日、北区総合庁舎内に区社協の一部門として、ボランティアセンターが開設され、ボランティア活動の振興を図る拠点として位置づけられた。

ボランティアセンターの業務については、ボランティア活動をする意欲を持っている方と、ボランティアを求めている方とをコーディネートする需給調整を中心にボランティア活動に関する支援・相談、情報提供、ボランティアグループの交流、ボランティア養成講座・研修の実施、ボランティアに関する広報、ボランティア活動に伴う各種連絡調整などを行っている。

図－1　北区ボランティアセンターシステム図



表－2　北区ボランティアネットワーク連絡会参加グループ　　平成8年3月末現在

有野台ボランティア	こうべ北コープボランティアセンター
一五の会	コープこうべボランティアグループささゆり
おばさんボランティア	しあわせサポート　ＩＮ　北区

カトリック鈴蘭台教会　スクラム	シルバーカレッジ　ボランティアセンター
鹿の子台ボランティア連絡会	鈴蘭台食品公害セミナー
ガールスカウト兵庫県第83団	特別養護老人ホーム　ふじの里
がんばろう！！神戸	ドントこい
神戸北ライオンズクラブ	ねぎぼうずの会
神戸ライフケアー協会	ひよどり台住民福祉協議会
グインの会	藤原台ボランティア
神戸北町ボランティアがんばり隊	ほほえみ北班　れんげ草

被災者支援としてのボランティアセンターの役割としては、まず、既述した「北区ボランティア情報交換の集い」を契機として生まれた「北区ボランティアネットワーク連絡会」の事務局としての役割がある。

この連絡会は被災者支援を行うボランティアグループ（平成8年3月末現在22グループ）が情報の交換や活動の調整を行うためのものであるが、連絡会として様々な支援事業の実施も行っている。平成7年5月14日に神戸総合運動公園で実施された「神戸わんぱくまつり」に連絡会として参加したのを皮切りに、10月10日には、仮設住宅のお年寄りや子どもたち約1，000人を招待して実施された運動会「ふれあいＫＯＢＥ’95」（神戸北ライオンズクラブ主催）を共催した。また、平成8年1月23日には、連絡会のメンバーである「がんばろう！！神戸」の呼びかけを契機に、震災からの1年を振り返り、これからのボランティアやコミュニティのあり方を語る集い「ふれあいＫＯＢＥ’96」を開催し、ボランティアをはじめ、地域の民生委員や自治会、婦人会また仮設住宅の住民など約600人が集い、トークやゲストの唄に熱心に耳を傾けた。

また、平成8年3月から、仮設住宅の一人暮らし老人や障害者を対象として、電話で安否確認をしながら話し相手をする「すずらん電話事業」を開始した。この電話は、センターから、事前に登録していただいた仮設住宅の一人暮らし老人や障害者にボランティアが電話をするものであるが、鹿の子台の仮設住宅から開始し、順次区内の全仮設へ対象を広げつつある。

この他、仮設住宅からの個別のニードに対し、ボランティアの紹介を行うのはもちろんであるが、特に交通の便の悪いひよどり台南の仮設住宅について、歳末にお正月の買い物が始まることから要望が強くなり、平成7年12月20日から、バス路線が開通する平成8年4月末日まで、区内の社会福祉施設のご協力を得て、ボランティアカーの運行を定期的（週4日）に実施した。

4. 終わりに

震災からすでに1年半が経過しようとしているが、被災者の支援活動は、まだまだ続けていく必要がある。支援活動は、避難所から仮設住宅へ、また当初の救援活動から友愛訪問や家事援助といった福祉ニーズへの対応、自治会づくりの支援などへと、場所、形を変えながら実施されてきた。今後は、仮設住宅の解消に伴う問題や在宅での福祉ニーズの増加などが予想されるが、区を始めとする関係機関と連携しながら、引き続き積極的な支援を実施していきたいと考えている。様々な支援をいただいた県内の他の社協の皆様を始めとする関係者の方々には、心からお礼申し上げるとともに、引き続きご支援、ご協力をお願いいたしたい。

事業概要表

事　業　名	事　業　概　要	8年度への課題・展望
1．被災者リフレッシュ事業	1　概要 北神地域の仮設住宅に入居している60歳以上のお年寄りを近くのフルーツ・フラワーパークに招待し、リフレッシュしてもらうと同時に、仮設住宅内でのコミュニティー形成のきっかけとした。 2　期日　平成7年7月17日（月）　9：30～16：00 3　参加人数　約360名（内訳）仮設入居者　320名 ボランティア　40名 4　事業内容 ・バスでの送迎 ・フルーツ・フラワーパーク見学、入浴 ・食事、懇談 ・神戸市混声合唱団による合唱・コンサート ・健康相談、年金相談コーナーの開設 ・輪投げ、青空市等の開催	
2．わんぱく児童のふれあいキャンプ	1　概要 仮設住宅で生活している子どもと子ども会の児童が、一緒に参加し子ども同士の交流を図る機会として、キャンプを実施した。 2　期日　平成7年8月6日～7日 3　場所　丹波少年自然の家 4　参加人数　81名	

3．ふれあいＫＯＢＥ’95 この事業は神戸北ライオンズクラブが主催し、北区ボランティア連絡会及び北区社会福祉協議会が共催して実施した。	1　概要 仮設住宅にお住まいのお年寄りや子どもたちに、さまざまな運動やゲームで、体を動かし、話し、笑って一日をすごしていただき、互いの、またボランティアとのコミュニケーションを深めた。 2　期日　平成7年10月10日 3　場所　みのたにグリーンスポーツホテル　グランド 4　参加者　北区の仮設住宅にお住まいのお年寄りや子どもたち仮設住宅で活動するボランティア約1，000人 5　内容（1）運動会、ゲーム、アトラクション （2）屋台（カレー、うどん、綿菓子、ジュースなど）	
4．元気いきいき秋まつり	1　概要 北区内の仮設住宅入居者を対象とし、被災者支援の文化祭として仮設住宅の第5次募集による入居がおちついた時期に北神地域と本区地域の2か所で実施した。 2　期日、場所、参加人数 （1）平成7年11月11日（土）12：00～16：30 有野小学校　約400名 （2）平成7年11月12日（日）　9：30～14：00 シルバーカレッジ　約700名 3　事業内容 （1）仮設住宅入居者の作品（絵画、手芸、写真、書道など）の展示 （2）中高生による楽器演奏 （3）仮設住宅の同好会による舞踊等 （4）ラ・シャボンによる楽器演奏 （5）浜田市石見神楽団による神楽（3題） （6）浜田市による物産展 （7）宍粟郡社協による野菜市 （8）お楽しみ抽選会	
5、阪神・淡路大震災被災高齢者リフレッシュ事業（仮設住宅入居高齢者・老人扶助グループのつどい）	1　趣旨 仮設住宅のひとりぐらし高齢者を有馬温泉に招待し、北区老人クラブ会員による「老人扶助グループ」との懇談をしながら、心身のリフレッシュをしてもらい、また、老人扶助グループの活動促進を図った。 2　開催日時、参加人数等 平成7年 12月 8日　（金）　鹿の子台地区 〃　12月 15日（金）　藤原台・有野台地区 〃　12月 22日（金）　本区 日帰りで3回に分けて実施　各100人ずつ合計　300名参加 3　場所　有馬温泉、兵衛向陽閣 4　内容 （1）お話と健康体操 （2）昼食懇談 （3）各コーナーの設置 ・マッサージ（北区視力障害者福祉協会による奉仕活動） ・健康相談　（北保健所保健婦による）	
6．仮設住宅入居者に対する年末支援事業	1　目的 北区内の仮設住宅入居者に対して、少しでも明るく大晦日・正月を迎えてもらうため、「みかん」と「石けん」を各戸に配布した。 2　対象 北区内の仮設住宅入居者 3　実施方法 住宅ごとにふれあいセンター等の拠点に配送し、仮設住宅自治会の協力により、全戸配布した。 自治会の未結成地域は、職員が配布した。 4　事業実施日　平成7年12月27日、28日	
7．ふれあいＫＯＢＥ’96	1　概要 震災後の一年を振り返り、今後のボランティア活動、コミュニティのあり方を語る集いとして、北区ボランティアネットワーク連絡会ほかボラン	

<table>
<tr><td></td><td>ティアグループとの共催で実施した。
2　日時　平成8年1月23日　12：00～15：30
3　場所　北区民センター　すずらんホール
4　参加者　600名
5　内容
（1）ふれあいトーク＆ディスカッション
（2）詩の朗読
（3）歌、コーラス</td><td></td></tr>
<tr><td>8．ふれあい体験学習（子どもスキー教室）</td><td>1　概要
　仮設住宅入居中の児童、養護施設の児童、一般児童が一緒に自然の中でスキーなど体験学習を通じ、実生活に役立つ教養を身につけてもらうと共に、リフレッシュと互いの交流を図った。
2　期日　2月17日～18日
3　場所　ハチ高原
4　参加者　小学4～6年生　50名</td><td></td></tr>
<tr><td>9．ひよどり台南仮設住宅ボランティアカー</td><td>1　概要
　ひよどり台南仮設住宅は、交通の便が悪いためお年寄りや障害者の通院、買い物の便に供するため、バス路線が開通するまで、社会福祉施設（神戸明生園）から車両の提供を受け、ボランティアによるボランティアカーの運行を実施した。
2　実施期間、運行日
　12月20日～3月31日　週4日（月・水・金・土曜日）</td><td></td></tr>
<tr><td>10．ボランティア講座等の開催</td><td>1　概要
　ボランティアの養成等を行うため講演会、講座等を実施した。
2　実施日、場所、参加人数
<table><tr><th>講演会、講座名</th><th>月　　日</th><th>人数</th></tr><tr><td>北区もっとボランティア講演会</td><td>6／28</td><td>179名</td></tr><tr><td>訪問ボランティア講座</td><td>8／7、8／8</td><td>39名</td></tr><tr><td>ボランティア養成講座</td><td>9／15～11／20　全9回</td><td>44名</td></tr><tr><td>ボランティア講座と保健婦さんとの交流会</td><td>10／2</td><td>22名</td></tr></table></td><td></td></tr>
<tr><td>11．すずらん電話事業
（ひとり暮らし老人等安否確認電話サービス事業）</td><td>1　概要
　震災にともない仮設住宅で生活するひとりぐらしの高齢者などに対して、電話により健康状態等を確認しながら話相手をして安否確認を実施し、安心なやすらぎのある生活を送れるよう支援する。
2　対象者
（1）仮設住宅に住む一人暮らしの高齢者（65歳以上）
（2）仮設住宅に住む一人暮らしの障害者、病弱者（3月末現在の対象者数35名）
3　実施者
北区ボランティアセンター運営ボランティア
（ボランティアグループ「ドントこい」「ほほえみ北班」「ひよどり台住民福祉協議会」のメンバー午前午後2人ずつの交代制）
4　事業開始日
　平成8年3月18日</td><td></td></tr>
<tr><td>12．小規模仮設住宅自治会助成業</td><td>1　概要
　50戸未満の小規模仮設住宅で結成されている自治会など入居者の自治組織に対し、仮設住宅入居者自らが行う被災者支援事業の経費を助成した。
2　対象
　仮設栗の木谷自治会　他　6自治会
3　事業実施日
　平成8年3月29日</td><td></td></tr>
<tr><td>13．ふれあいのまちづくり協議会への助成
（北区被災者支援事業助成）</td><td>1　概要
　仮設住宅の入居者等を対象にした被災者支援事業を展開しているふれあいのまちづくり協議会等の地域福祉活動団体に、活動助成を行った。
2　対象</td><td></td></tr>
</table>

	小部ふれあいのまちづくり協議会　他　24協議会 3　事業実施日 平成8年3月29日	
14．被災者交流・見守り活動支援	1　ふれあい推進員の委嘱及び活動支援 ・ふれあい推進員116名 2　ふれあいセンターの運営支援 ・33カ所 3　愛の輪テント設置及び地域交流支援 ・5カ所	

(C) 発行元：兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 , c1997 (デジタル化：神戸大学附属図書館, c2001)

復興活動一年目の記録 : 社会福祉協議会の震災被災者支援活動 : 1995.4-1996.3 - 発行:神戸 : 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 : 神戸市社会福祉協議会, 1997.1. 請求記号:震災-7-379. p57-65

長田区社会福祉協議会

1．長田区の被災状況（資料1）

M7．2の規模で襲った阪神大震災は、神戸の市街地を中心に未曾有の被害をもたらした。長田区は、震度7の激震地でもあり、大きな被害により、住民の生活が破壊された。

長田区内の建物の内、57．2%が、全壊・半壊の被害を受け、また、27件の火災によって、長田区の面積11．51平方キロメートルの内、約2．6%にあたる304，000平方メートルが焼失した。

また、震災後、小・中学校はもとより、保育所・地域福祉センターなどあらゆる公的施設が避難所として利用され、最大時79カ所に35，347人の住民が避難していた。

人口も激減しており、平成7年10月1日の国勢調査人口は、96，807人で、震災前の平成7年1月1日の人口（推計129，978人）と比較すると、33，171人の減となっている。

長田区内には、14カ所647戸の仮設住宅が建設されている。高齢者・障害者優先であった第1次募集枠の3カ所349戸とそれ以外の第5次募集の小規模仮設群に大別される。前者では、弱者が多く仮設コミュニティでの生活支援が課題であり、後者では、住民の凝集度が低く、自治会の結成すら困難な仮設住宅がある。いずれの場合も、住民の流動が激しく、せっかくの地域活動が定着しにくいという仮設住宅特有の課題を抱えている。

また、一般地域においても、大きな住民移動により、従来のコミュニティ機能が低下している地域も多い。民生委員自体が被災したり、友愛訪問グループが消失した地域もあったが、平成7年度末には、友愛訪問グループは、震災前の58．6%、給食グループは、62．5%まで回復した。夏まつりや餅つきといった地域交流事業についても、住民の減少、実施主体への打撃と困難が多いが、それらを乗り越えていこうとする地域も多く、住民の努力が続いている。

2．長田区社会福祉協議会の取り組み

（1）　長田ボランティアセンターの設立と運営

長田区には、震災直後から多くのボランティア・ＮＧＯが支援活動のために、駆けつけていたが、当初、区では、ボランティア受入れの準備はなされておらず、多くの混乱があった。しかし、「行政で対応可能な範囲を明らかに越え」、また、「実際に多くのボランティア志願者がいる」という現実の中で、効率的な支援活動を行っていくためのシステムつくりが行われていった（資料2）。ボランティアの入れ代わりが激しく、グループの統一性が保てなかったり、多くのボランティアがインフルエンザや燃え尽き症候群で倒れたりと多くの課題・難題を抱えてはいたが、長田区の場合は、ボランティアと行政の機能分担は、比較的スムーズにいったと思う。

殆どのボランティアやＮＧＯが、3月末での撤退を決める中で、今後の長田区でのボランティアによる支援のあり方が検討され、その中核となる機関として区社会福祉協議会の中にボランティアセンターを設立することになった。

ボランティアセンターの設立は、震災前から区社会福祉協議会の課題であった。しかし、長田区は、「向こう三軒両隣」のつきあいによって生活が支えられてきた地域で、いわゆる「ボランティア」という概念になじみにくい土地柄であり、そこでボランティアセンターを運営することに躊躇する気持ちがあった。

震災がおこり、多くのボランティアがやってきて、住民の方の生活を支援してくれた。この現実は、長田区で、「ボランティア」という言葉なり、イメージを浸透させた。長田区民でボランティア活動に参加する人は、まだ少ないが、「ボランティアさんのしてくれること・ボランティアのできないこと」を大量・多様に経験したことは、今後の大きな財産になっていくと考えられる。

平成7年4月のボランティアセンターの設立以降の長田区社協は、センターの運営中心に展開されていった。年度前半は、避難所の運営支援や住民からの引っ超し・家の片付けなどの依頼も多く、震災支援の色彩が濃く残っていた。活動コーディネートという基本業務の他の特徴的取り組みは、地域イベントの主催と参加・広報・情報発信業務であった。

1）長田ボランティアルーム・夏休み引っ越しチーム

震災後、引っ越しや家の片付けといった力仕事の依頼が多くボランティアに寄せられた。平成7年3月になり、事態が若干落ち着き、業者機能も回復してきたが、高齢者等の世帯には、引き続きボランティアによる支援が必要と思われた。特に、平成7年3月～8月にかけて、仮設住宅の建設がなされ、避難所からの引っ越しの依頼への対応が求められた。

そこで、平成7年1～3月に長田区へ来ていたボランティア（大学生中心）に協力を求め、「長田ボランティアルーム・夏休み引っ越しチーム」を編成し、7月25～8月25日の間、約80件の力仕事の依頼に対応した。大学生は、東京・仙台・鹿児島などからも来ていたので、管内の児童館を宿泊場所として提供する形態をとった。

2）地域イベントの主催や参加

イベントやレクリエーションは、ボランティアにとっても楽しいものであると同時に、多様な経験ができる場であるので積極的

に取り組む分野と考えている。
・こころ咲かそうコンサート
　区内の朗読ボランティアのグループと共催で行ったコンサートである。セミプロやアマチュアの視覚障害者のグループ演奏を第一部に、そして、それを支援する形でフォークシンガーの高石ともやさんを招いて行われた。
　素人集団のボランティアグループやセンターが、コンサートづくりに挑んだわけだが、音響・照明とわからないことだらけのスタートだった。しかし、高石ともやさんが、単なるゲスト出演者としてではなく、「コンサートを、他の出演者・ボランティア・スタッフみんなでつくっていこう」と提案され、主体的な関わりをいただいた。障害者達の熱演もあり、コンサートの最後には、会場全員で唄を歌い、とても心暖まるコンサートにすることができた。
　障害者のバンドの人たちや高石さんの神戸の人達と音楽を通じてふれあいたいという気持ちを十分に伝えることのできたコンサートであったし、また、震災等の影響で演奏の機会の減った障害者の演奏家達にその機会を提供するという社協としての役割を果たせた企画であったと評価している。
　音楽好きの障害者達から、平成8年度も開催されれば、是非出演したいとの声が届いており、実現させたいと考えている。

地域イベント“長田区ゆきまつり”の開催

3）インターネットでの情報発信

　長田区がホームページを平成8年1月17日に立ち上げ、世界に向けての情報発信を始めた。その中で、「長田ボランティア情報」を掲載している。
アドレス　http://wwwkobe-cuts.ac.jp/kobe-city/information/nagata/index.htm
・「長田ボランティアセンター」「グループからのメッセージ」
　長田ボランティアセンターの紹介と区内で活動するボランティアグループの紹介
・「ピックアップニュース」
　ボランティアセンターの事業や区内の地域行事を紹介するコーナー
・「長田まち、ひと追いかけます」　長田区内のあちこちに取材にでかけ、現在のまちの状況やまちの人へのインタビュー記事を掲載するシリーズ

（2）長田区内仮設住宅地域支援

　長田区内には、14カ所647戸の仮設住宅が建設された。特に、第1次募集で入居した3仮設には、高齢者・障害者が多く、福祉的支援・ボランティアによる支援が求められた。区社協では、仮設住宅に関わる行政（福祉事務所・保健所・消防）、ボランティア団体との連絡会を定期的に主催し、調整役としての機能を果たしている。同時に、仮設住宅自治会に積極的に関わり、ふれあいセンターの設置・運営協議会づくり・センターでの活動支援をおこなっている。
・長楽・若松ふれあいセンター運営協議会支援
　ふれあいセンターの設置される長楽公園の仮設住宅は、高齢者・障害者対応の地域型であり、自治会だけでセンターを運営していくことができないとのことだった。そこで、区社協では、仮設周辺の民生委員・自治会長・青少協・ボランティアグループ・若松仮設自治会長で運営協議会を編成し、ふれあいセンターを支えていくことにした。
　結果、ふれあいセンターの行事に周辺の住民が参加したり、逆に、周辺地域の給食サービスに参加しにいったりなど、仮設住宅と地域の交流が図られていった。また、センターが、周辺地域の各種団体の会合や事業に利用されたり、地域の学校の福祉体験学習の場に活用されたりと、地域活動を盛り上げていくのに一役買っている。センターの運営協議会の中で、地域福祉活動に関わる新しい人材や方法論が育ちつつあることは、周辺地域の将来にとっても大きな財産になっていくと考えている。

（資　料）

1．長田区の被害状況　　※（　）内は全市の被害状況

（1）死者（平成7年11月13日現在）：906名（4，484名）

（2）負傷者（平成8年2月9日現在）：533名（14，679名）

（3）物的被害（平成7年12月現在）

・建物の倒壊（全焼・半焼を除く）

	全壊棟数	半壊棟数	合計棟数	全棟数	倒壊率
長田区	15,521	8,282	23,803	41,606	57.2%
全市	67,421	55,145	122,566	397,977	30.8%

※倒壊率とは、全家屋に占める全半壊家屋の割合

・火災

	件数	焼損面積		全焼棟数	半焼棟数
		敷地	延床		
長田区	27件	304千㎡	524千㎡	4,759	13
全市	176件	642千㎡	819千㎡	6,975	73

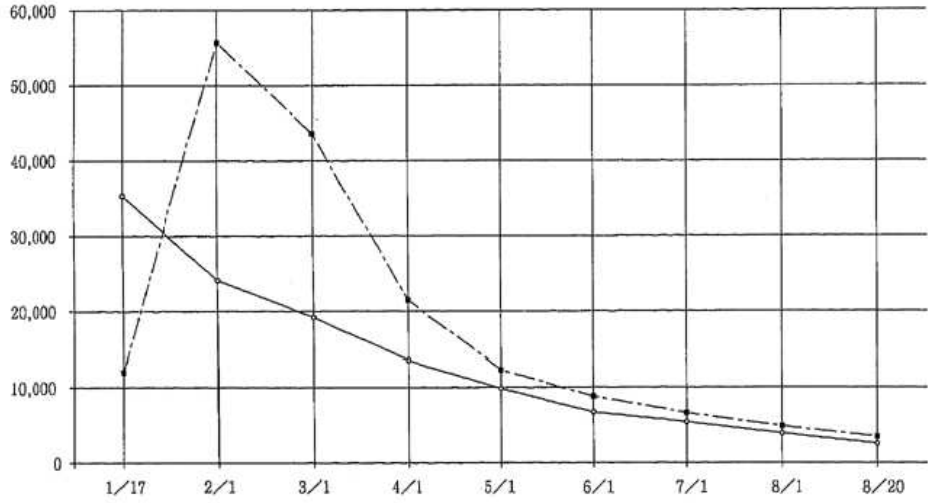
（4）長田区におけるライフラインの復旧状況

・電気　1／23　復旧完了
・ガス　4／11　復旧完了
・水道　3／20　復旧完了

（5）長田区人口の状況

	H7.1.1	H7.10.1	増減
世帯数	53,247	37,940	△15,307
人口	129,978	96,807	△33,171

（6）避難者数・配食数・避難所数



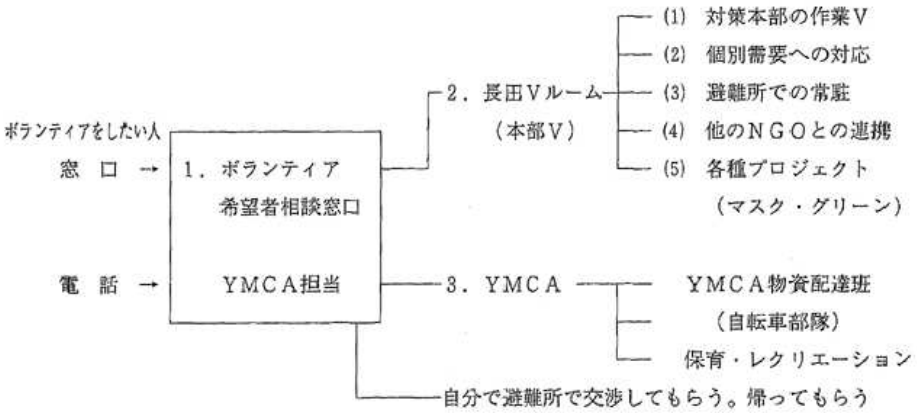
	1／17	2／1	3／1	4／1	5／1	6／1	7／1	8／1	8／20
避難者数 ——•	35,347	24,126	19,203	13,564	9,842	6,728	5,442	3,908	2,591
配食数 —·—▪	12,000	55,641	43,589	21,493	12,288	8,832	6,634	4,870	3,488
避難所数	71	79	68	54	51	50	44	42	30

（7）区内仮設住宅一覧

仮設住宅名		戸数	住所	タイプ	備考
第1次	西代	248	蓮池町	2K	
	若松	44	日吉町	2K	
	志里池	57	真野町	2K	
		(349)			
第5次	苅藻通6丁目	24	苅藻通6丁目	1K	
	高取山	12	高取山2丁目	1K	
	雲雀ケ丘	6	雲雀ケ丘1丁目	1K	
	西代第2	32	山下町	1K	
	一番町	20	一番町	1K	
	御蔵通	3	御蔵通6丁目	1K	
	菅原通	10	菅原通2丁目	1K	
		(107)			
駒栄南公園		40	南駒栄町	地域型	
南尻池公園		48	東尻池町6丁目	地域型	
東尻池公園		32	東尻池町5丁目	地域型	
		(120)			
小計		574			
長楽地域型		71	野田町5丁目	地域型	高齢者・障害者対応
合計		647			

2. 長田区における救援ボランティアの受入れシステム　－　平成7年1月～3月末

当初は何の受入れシステムもなく、1月末～2月初めにかけてＹＭＣＡや個人Ｖとの話し合いで整理されていった。



事業概要表

事業名	事業概要	8年度への課題・展望
1．ボランティアセンター （1）活動コーディネイト	高齢者・障害者等への生活支援ボランティアのコーディネイト 1）登録ボランティア　個人179名、グループ　9団体　（H8．3．31現在） 2）依頼状況　393件（実施分） ※年度前半は、震災の影響が大きく、引っ越しや家の片付けなどの依頼が多かったが、仮設住宅の建設が終了した夏頃からは、外出介助・話相手・家事援助といった福祉的・継続的な依頼へと移行していった。	福祉的・継続的依頼が多くなっており、ボランティアの力量アップを図る戦略とスーパービジョン機能が求められている。 登録ボランティア向けの研修・ミーティングの充実が必要

内容	荷物運片付け	引越	外出介助	日曜大工等	家事援助	話相手	その他	イベント
実施件数	66	142	78	23	12	18	33	21
再掲（継続分）	－	－	23	－	11	17	4	－

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>（2）情報誌の発行・インターネットでの情報掲載</td><td>1）それいけボイス
登録ボランティア・関係機関向け情報誌　約250部発行
2か月に1回発行
2）長田かわら版
長田区内に仮設住宅向けの生活情報誌　約1，000部発行
1か月に1回発行
長田区外・神戸市外の仮設住宅自治会にも送付、回覧
3）長田区ホームページでの情報発信
・ボランティアセンター情報
・長田区内のボランティアグループからのメッセージ
・長田のまち、ひと追いかけます</td><td></td></tr>
<tr><td>（3）研修会・講習会・体験講座の開催</td><td><table>
<tr><th>名　　称</th><th>時　期</th><th>参加数</th><th></th></tr>
<tr><td>ボランティア1日講習会</td><td>4．29</td><td>56</td><td>登録ボランティア対象の講習</td></tr>
<tr><td>長田もっとボランティア講座</td><td>6．18</td><td>32</td><td>登録ボランティア対象の講習</td></tr>
<tr><td>訪問ボランティア講座</td><td>7．29～30</td><td>85</td><td>一般向のボランティア講座</td></tr>
<tr><td>お茶しながらお話しましょうＶＯＬ1</td><td>10．3</td><td>10</td><td>継続ボランティア対象のミーティング</td></tr>
<tr><td>ひと夏の体験</td><td>7．21～8．31</td><td>46</td><td>一般向のボランティア体験講座</td></tr>
<tr><td>ボランティア実践講習会</td><td>1．26～2．3</td><td>48</td><td>基礎的な介護技術講習会</td></tr>
<tr><td>お茶しながらお話しましょうＶＯＬ2</td><td>2．18</td><td>10</td><td>継続ボランティア向けのミーティング</td></tr>
</table></td><td>・登録ボランティアへの研修の充実
・小学生向けの福祉体験講習会を実施したい</td></tr>
<tr><td>（4）地域イベントの開催・協力</td><td><table>
<tr><th>名称</th><th>時期</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>長田マダン参加</td><td>H7．5．7</td><td>長田マダン祭りで、西神戸ＹＭＣＡと協力して、屋台店参加</td></tr>
<tr><td>鷹取台子供会カレーライスつくり</td><td>H7、5．28</td><td>鷹取台子供会行事へ企画・運営支援</td></tr>
<tr><td>フラワープロジェクト</td><td>H7．6．10
H7．11．10</td><td>岐阜県加茂農林高校生の育てた花苗を兵庫高校・真野地域等で学校ＰＴＡや地域と協力して植栽</td></tr>
<tr><td>長田たなばたまつり参加</td><td>H7．8．6</td><td>長田たなばたまつりで、落書きハウスと大道芸コーナーを担当。あんぱんまんも登場し、人気を博した。</td></tr>
<tr><td>こころ咲かそうコンサート開催</td><td>H7．11．22</td><td>視覚障害者連のピアノやバンド演奏とフォークシンガー高石ともやさんによる心暖まるコンサート</td></tr>
<tr><td>クリスマス会</td><td>H7．12．9</td><td>保育所保護者会主催のクリスマス会アトラクションに、「唄のおねえさんチーム」が出演。サンタに扮して大活躍</td></tr>
<tr><td>仮設住宅「ひざかけ・蜜柑」プロジェクト</td><td>H7．12．22～12．27</td><td>ケアの行き届きにくいといわれる小規模仮設に対し、岩手から届いた「ひざかけ」を届け、年末の安否確認を行う</td></tr>
</table></td><td>被災地ということで、他地域からの応援企画であったが、今後は、自主企画の充実が求められる。8年度も「たなばたまつり」「こころ咲かそうコンサート」「ゆきまつり」は継続開催したい</td></tr>
</table>

	じゃがいもプロジェクト	H7．11	北海道からのじゃがいもを自家調理のふれあい給食グループ等へ配付し、秋のメニューを彩った	
	長田区ゆきまつり	H8．2．10	岡山県東粟倉村商工会から送られた30トンの雪で、長田区ゆきまつりを開催	
	そうめんプロジェクト	H8．3月	寄付を受けたそうめんを仮設住宅やふれあい給食グループへ配付	
（5）古切手・テレホンカード収集	（5）古切手・テレホンカード収集 広報紙でＰＲ、区内の小学校5、中学校2校が協力 古切手は、「誕生日ありがとう運動本部」、テレホンカードは、「ジョイセフ（家族計画国際協力財団）」へ送付			学校だけでなく、区内の企業のいくつかにもアプローチしていきたい
2．地域福祉活動への支援 （1）地域福祉復興事業	1）区内全児童への辞書配付 　被災を経験した区内の小学生に英和辞典・漢字辞典を区社協からのお年玉として配付 2）地域の復興の取り組み事業への支援・助成 ・地区運動会 ・復興まつり ・震災復興和太鼓交流会 ・復興もちつき大会 ・とんど祭り ・給食サービス事業の立ち上がり支援			
（2）仮設住宅支援事業	区内の14カ所648戸の仮設住宅等に対する支援活動を積極的に推進した ・ふれあいセンター（区内3カ所）の設置の支援や仮設自治会の活動支援 　運営協議会の設立支援や場所等についての地元協議会の開催、また、センターでの活動内容について、相談にのったり、マネージメントを行ったＥＸ．餅つき大会やそばうち大会のコーディネート ・愛の輪ふれあいテントの設置（若松仮設）と活動支援 ・ふれあい推進員の委嘱と研修 ・年末年始におけるボランティアの仮設訪問事業への支援 ・全国からの支援物資や手紙の配付 ・仮設支援連絡会の開催　区内仮設に係わる福祉事務所 ・保健所・消防署・ボランティアグループとの連絡会議を月1回開催した			8年度は、この連絡会の他に仮設ごとに自治会長・民生委員等の住民を交えて情報連絡会を開催し、住民での見守り体制を確認していく
3．高齢者福祉の推進 （1）ひとりぐらし老人友愛訪問活動への支援	6年度353グループの友愛訪問グループが活動していたが、震災で民生委員、グループメンバー・対象老人とも大きな被害を受けた。 震災以降、徐々にグループの活動も復活し、7年度末で262グループが再結成された。（仮設住宅地域は、6グループ結成）			
（2）ひとりぐらし老人ふれあい給食サービス	6年度32グループの給食グループが活動していたが、震災で民生委員、グループメンバー・対象老人とも大きな被害を受けた。震災以降、徐々にグループの活動も復活し、7年度末で30グループとなり、他のグループの開始も間近である。区社協として、壊れた備品等の購入や会場整備への支援を行った。			・再開準備中のグループへの支援 ・給食グループ等の企画を支援するため、演芸ボランティアの蓄積
（3）老人マッサージ奉仕	長田視力障害者福祉協会、鍼灸マッサージ師会の協力を得て、老人マッサージ奉仕事業を行い、高齢者52名がマッサージを受けた。			
4．児童の健全育成	青空児童館 　区内には、11カ所（震災時は10カ所）の児童館があるが、2カ所が全壊、また3児童館が避難所として利用されていた。そのため、長田区内の公園や学校で青空児童館事業を展開した。			
5．障害者福祉の推進 （1）御菅交流センターの設置	長田区御菅地区に「御菅交流センター」を仮設建築し、各種障害者団体の活動場所・交流拠点として供与するとともに、御菅地域のまちづくり等の住民活動の拠点としても利用されている。			

（2）　なかよしまつり、なかよし太鼓への支援	重度心身障害者父母の会・精神薄弱者育成会長田支部主催の「なかよしまつり」は、15年来、地域と障害者の交流のまつりとして行われ、区社協も初回時より後援してきた。平成7年度は、震災の影響で、従来使用していた学校が避難所となり校庭が使えなかったりと、開催が危ぶまれたが、場所の確保とボランティアの手配を行い、開催にこぎつけることができた。また、知的障害者の行う和太鼓「なかよし太鼓」も発表場所が滅少したが、地域行事への出演などをコーディネートするなどの支援を行った。	
6．生活福祉資金の貸付	6年度は、震災後、8，168件1，123，200千円の小口貸付業務を行った。7年度には40件14，580千円の災害援護資金の貸付業務を行った。	
7．施設部会の活動	区の広報誌の施設だよりの中で、被害の大きかった施設の復興状況を報告するとともに、「心のケア～震災を体験して」をテーマに施設職員研修を行った。 また、区内保育所5歳児を中心に地域の子供たちにも呼びかけ、5歳児交流事業（震災児童激励・リフレッシュ事業の助成）を行った。	

(c)1997神戸市社会福祉協議会, 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 (デジタル化：神戸大学附属図書館)

復興活動一年目の記録 : 社会福祉協議会の震災被災者支援活動 : 1995.4-1996.3 - 発行:神戸 : 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 : 神戸市社会福祉協議会, 1997.1. 請求記号:震災-7-379. p66-70

須磨区社会福祉協議会

大震災直後、須磨区社協もほとんどの他区社協と同様に、小口の生活福祉資金特別貸付事業以外では、これといった活動ができず、ボランティアの受け入れや支援などへの対応は本庁からの応援職員にお願いしなければならなかった。この主因は神戸市の市・区社協体制にある。市社協と区社協間の事業の縦割及び市職員の区社協事務兼務により、震災直後は区社協として実働可能な専任職員が2名しかおらず、絶対的に人手が不足した。平常時、区社協事務を兼務する市職員は、区の事務に忙殺されたのである。その後平成7年度に市職員ではあるが区社協派遣の係長級職員が各区に配属され、体制は多少強化された。

須磨区も震災の被害が甚大で（別紙資料参照）、仮設住宅も45団地、2，125戸が建設された。このような状況の中で、平成7年度は被災された方々に対する福祉施策を区社協の最重点課題として取り組んだ。

特に新規事業として、平成7年6月1日には須磨区ボランティアセンターを開設し、地域住民とボランティア、行政をつなぎ、区内のボランティア活動のより一層の充実を目指した。ボランティアセンターでは、一般活動として、コーディネート業務やボランティア講座の開催のほか、各種の情報提供や相談業務を行うとともに、震災復興にかかる特別活動として、次の仮設住宅支援を行った。また、区社協として地域福祉復興事業を行った。

1．仮設住宅支援

未曾有の大震災であったため、被災者の数があまりにも多かった。仮設住宅の供給不足に始まり、水はけや街灯問題に代表する住宅環境の改善要望などに対し、行政の対応は後手にまわりがちで、どこへ訴えればよいのかわからない住民やボランティアからの声がボランティアセンターにも多く寄せられ、このような声に応えるためには、情報交換の場が必要であった。また、慣れない土地で知らない人ばかりの仮設住宅に入居し、不安を抱えているのは誰も同じで、大規模仮設住宅の方だけでなく、小規模仮設住宅の住民の方にもコミュニティ形成の場を提供することが必要と考え、次の事業を行った。

（1）仮設住宅支援連絡会の開催

平成7年8月から概ね月1回程度（全6回）開催し、情報交換を中心に仮設住宅内の問題解決に向けて話し合いを行った。

この連絡会をつうじて、それぞれの仮設住宅の状況、例えば、○○仮設住宅でＡとＢとＣのボランティアグループが活動しており、××仮設住宅には全くボランティアグループが係わっていないといったことがわかっていった。また、交流を深めることにより、ボランティア、自治会、行政がそれぞれ必要に応じて互いに連絡を取り合うことができるようになったことが良かった点である。

補足であるが、ボランティアグループが自治会結成支援に力を入れた結果、平成7年9月25日現在、12団体であった仮設住宅自治会が、翌年3月8日現在では27団体となり、区内にある仮設住宅45カ所のうち34カ所（1，825戸）をカバーしている。

連絡会参加者　ボランティアグループ、仮設住宅自治会、民生委員・児童委員協議会、行政（区役所、保健所、福祉事務所、消防署［随時］）

（2）『ふれあいテント』貸与事業の実施

民間からの寄付を原資として、ふれあいセンターが設置されない小規模仮設住宅に対し、交流の場として四方幕付きテント（サイズ：2間×3間）と机・いすを貸与した。また、経費の一部（5万円）を助成し、その他の運営費用については、阪神・淡路大震災復興基金のボランティア活動助成制度の利用を薦めた。

貸与先　14仮設住宅自治会

2．地域福祉復興事業

大震災後初めての年末年始を迎える被災者に対する元気づけと大きな被害を受けた須磨の街の復興を祈念して、“季節感のあるものを”というコンセプトのもと、次の地域福祉復興事業を行った。

（1）須磨区復興お餅つき大会

お正月に欠かせないお餅を被災者に届けようと、ボランティアの協力も得て、12月25日～27日にお餅つきの『出前』を行った。対象は区内にある45カ所（2，125戸）すべての仮設住宅で、規模が小さかったり、近接する住宅は合同開催とし、すでに自治会などで計画していた19カ所には助成金を出した。

また、被害の大きかった地域の4地域福祉センターでも実施し、仮設住宅以外の被災者にも喜んでもらった。

『出前』のお餅つき大会では、みんなでお餅をまるめ、ぜんざいを楽しんだほか、おみやげに鏡餅を用意した。

（復興お餅つき大会）

（2）新春　復興！凧あげ大会

年末年始被災者支援事業の一環として、年末のお餅つき大会に続き、平成8年1月13日に須磨海岸で凧あげ大会を開催した。

区内の小・中学校の児童・生徒を中心に子供会や婦人会などにも広く呼びかけ、当日が好天に恵まれたこともあって、親子連れを中心に非常に多くの参加を得た。

日本凧の会の協力により、凧づくり教室や凧づくりコンテストが行われ、『神戸は元気』などと書かれた長さ120メートルの連凧をはじめ、珍しい凧を使った模範演技も披露された。また、オリックスのネッピーの来場やぜんざいコーナーもあり、新年らしい賑やかな1日となった。

以上のような事業を行うことができたのは、震災を契機にボランティア活動が広く社会に認知され多くの人の協力が得られたこと、また、区社協に対して神戸市や全国社会福祉協議会をはじめとする各方面から、物心両面のご支援・ご協力があったおかげである。

しかし、震災から1年以上が過ぎ、被災地ではそれなりの落ち着きを取り戻してきているが、仮設住宅解消のメドもはっきりせず、全半壊の自宅に住み続けている被災者も多い。そして、これらの人も含め、着実に社会の高齢化は進んでいる。

今、須磨区社協では、従来からの事業の充実を図るとともに、ボランティアセンターが中心になって、現在高まっているボランティア意識を大切に育てて復興の糧とし、21世紀の超高齢社会に備えていくことが大きな課題と考えている。また、これから予想される問題として人とお金の問題がある。現在の区社協には、共同募金程度しか独自財源がなく、神戸市や市社協からの交付金や補助金に頼っている。人材不足も依然として深刻で、ボランティアセンターのコーディネート業務もアルバイト職員が行っている。

これらの問題を1つずつでも解決しながら、地域のみなさんに身近かな区社協となれるようしっかりとした基礎を作って行きたい。

【別紙資料】

阪神・淡路大震災の記録

兵庫県南部地震の概要

発生日時	平成7年（1995）1月17日（火）　午前5時46分
震源地	淡路島北部（北緯34．6°　東経135．0°）
震源の探さ	約14km
規模	マグニチュード7．2（推定）
最大震度	7（観測史上初）
特徴	縦揺れと横揺れが同時に発生
余震回数	1，307回（1月17日～1月30日）

須磨区の被災状況

南部では木造家屋の倒壊や電車の脱線などがみられ一部では高速道路の高架が切れていた所もあった。

死　　者	393人	行方不明者	1人	（平成8年1月現在）
全壊棟数	7，696棟	半壊棟数	5，608棟	（平成7年12月現在）
全焼棟数	407棟	半焼棟数	35棟	（平成7年12月現在）

避難者数等の状況

最大時（1月24日）	避難所	69カ所	避難者数	21，728人

1月17～8月20日　　延就寝者数 1，213，813人
延避難者数 1，516，084人

事業概要表

事　業　名	事　業　概　要	8年度への課題・展望
1．仮設住宅支援連絡会の開催	情報交換を中心に仮設住宅内の問題解決や生活環境改善を目指した話し合いを行った。 実施日　参加者 第1回目　8月24日 ボランティアグループ 第2回目　9月27日 ボランティアグループ、行政 第3回目　11月7日 ボランティアグループ、行政、仮設自治会 第4回目　12月14日　〃 第5回目　2月8日　〃 第6回目　3月14日　〃 ※ボランティアグループ：15団体、仮設住宅自治会：27団体 行政：区役所、保健所、福祉事務所、民生・児童委員協議会、消防署〔随時〕	情勢に応じたかたちで形態変更の予定
2．ふれあい推進員の委嘱	民生・児童委員協議会など福祉関係団体と協力・連携を図りながら安否確認や友愛訪問などを行うふれあい推進員を区長との連名で委嘱した。ふれあい推進員は、仮設住宅概ね50戸に一人の割合で住民の中から選任。 ※43仮設住宅団地に36名を委嘱	継続事業
3．ふれあいテント貸与事業の実施	ふれあいセンターが設置されない小規模仮設住宅に対し、交流の場としてふれあいテント（セット）を貸与した。 ※テントサイズ： 2間×3間 ※付属備品：長机4台、椅子20脚 ※運営助成：5万円（当初のみ） ※貸与件数：14仮設住宅自治会	継続事業
4．須磨区復興お餅つき大会の開催	出前餅つき大会の実施：12月25～27日　13カ所 26仮設住宅（1，082戸） 地域福祉センター（4カ所） 内容：餅つき、ぜんざい、おみやげ（鏡餅） 自主開催地域への助成：年末年始　13カ所 19仮設住宅（1，043戸） 地域福祉センター（2カ所） ※対象は区内45カ所（2，125戸）すべての仮設住宅（小規模及び近接する仮設住宅は合同開催）	
5．新春　復興！凧あげ大会の開催	開催日： 1月13日、場所：須磨海岸 参加者： 一般、小・中学生、婦人会、子供会 内　容： 1）凧づくり教室 2）凧づくりコンテスト 3）凧あげ大会 4）凧あげ模範演技（日本凧の会） 5）オリックスネッピー来場、ぜんさいコーナー、おみやげ	継続事業
6．ひとりぐらし老人給食サービスグループへの震災復旧特別助成	ひとりぐらし老人給食サービスグループに対し、活動再開（震災で壊れた食器の買い替えなど）を支援するための特別助成 ※助成対象：14グループ	

7．旧避難所支援事業の実施	避難所解消に伴って鷹取中学夜（須磨区内最大の避難所）が他校から借りていたテントを返却するにあたり、破損、汚損が激しく弁償を要する分のテントを寄贈した。 ※テントサイズ：2間×3間　4基 2間×4間　6基 ※学校名印字	

(c)1997神戸市社会福祉協議会, 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 (デジタル化：神戸大学附属図書館)

復興活動一年目の記録 : 社会福祉協議会の震災被災者支援活動 : 1995.4-1996.3 - 発行:神戸 : 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 : 神戸市社会福祉協議会, 1997.1. 請求記号:震災-7-379. p71-76

垂水区社会福祉協議会

1．被災状況

垂水区の場合、震源地である淡路島北部に比較的近接しているにもかかわらず、神戸市内の他区に比べて被害が少なく、死者は、若干名であり、また建物も損傷を受けたものがかなりあったものの、全壊・全焼戸数は比較的少なかった。

しかし、震災により家屋が、その状態で危険となったり、ライフラインが途絶したことなどにより、地震発生当日避難所41か所、そこでの就寝者数6，926人を数えた。その後、ライフラインが回復するのに加え、応急仮設住宅への入居が始まる一方、避難者自身の住居の改修等により、避難所数・就寝者数は減少し、西区、北区に続いて垂水区は、平成7年8月20日に避難所が、解消された。

また、応急仮設住宅について、垂水区内では、合計21か所、2，308戸が建設され、学園緑が丘（垂水区小束山5－868－3　100戸鍵渡し開始　平成7年3月29日～）から順次入居が始まった。垂水区は、地域の被害が比較的小さかったため、支援機能を失わずに済み、震災直後から、自治会、婦人会、民生委員、ＰＴＡ、ふれあいのまちづくり協議会等が救援・支援活動を開始した。そのため、他の地域からのボランティア活動の申し出については、ほとんど他区への支援をお願いした。また、応急仮設住宅も市街地の中に建設されたため、地域の人々が支援することは比較的容易であった。

住民、職員とも被災者である一方、未経験のことでもあり、当区社会福祉協議会としても、ある面では手探りの状態で、住民とともに地域で行った被災者支援のための活動のいくつかを述べてみたい。

2．ボランティアセンターの設立・運営

垂水区社会福祉協議会は、以前から介護を中心としたボランティア入門講座、手話講習会を開催するとともに、地域でのボランティア活動の広報を行うなどして、意識の啓発に努めて来た。そして、社会福祉施設で作業補助、介助を行うボランティアグループ、個人に対する介助、対面朗読を行うボランティアグループなどが活動していた。

ところが、阪神・淡路大震災を契機として、住民のボランティア意識の高まりの中、ボランティア活動の申し出が相次いだ。また、応急仮設住宅への入居が始まると、被災者である入居者への支援活動について、もとより、地域の皆が未経験であるため、多方面、多重的、多様な支援活動が要求された。そのため、自治会、婦人会、民生委員、ふれあいのまちづくり協議会による活動の他、広くボランティア活動を求めることが必要と考えられ、垂水区社会福祉協議会は、神戸市内の他区と相前後してボランティアセンターを平成7年6月15日に設立した。

まず、ボランティア活動を行いたい方、個人、団体を問わず、相談を受けるとともに、登録をしていただき、また、ボランティアの支援を必要としている方々の相談と登録を開始した。

ボランティアの登録状況から見ると、団体で登録した方は別として、個人で登録した方々のほとんどは、ボランティア活動の未経験者か、震災後初めて、ボランティア活動を経験した人がほとんどであり、女性が全体の約8割で、その内主婦が多く、男性は、60歳代以上が過半を占めていた。そして、とにかく何かボランティア活動を行いたいという方がほとんどであった。

また、応急仮設住宅入居者支援のボランティア活動が急務であり、その活動のため、第1回目は、登録されたボランティアを対象に平成7年7月に、第2回目は、広報こうべ垂水区版8月号で募集を行い、平成7年9月に、神戸市社会福祉協議会と共催で区民を対象として応急仮設住宅ボランティア入門講座を開催した。講座は、「ボランティア活動の心得」「阪神・淡路大震災の心への影響」「高齢者の心理とコミュニケーション」等をテーマに行い、それぞれの講座の最終日に、応急仮設住宅の状況を話すとともに、活動方法の提案を行った。活動を継続して行うには、グループで活動することが肝要であると考え、グループづくりを進め、ボランティア支援を必要とする応急仮設住宅を具体的に提示した。

その後、従来から当区社会福祉協議会が行っていた介護を中心としたボランティア入門講座について平成7年度は応募者多数のため2回実施し、その修了者からも応急仮設住宅入居者支援の活動が開始された。また、当ボランティアセンターに団体登録したグループの中には、ボランティアセンターと連携して、同じく応急仮設住宅入居者支援の活動を始めるグループもあった。

応急仮設住宅でのボランティア活動は、活動方法・内容について決定しているグループ例えば、食器・衣料品のバザー等活動内容を決めているグループは別として、ほとんどが試行錯誤しながらであった。そのため、どのような方々が入居しているか知るため、応急仮設住宅の各戸訪問から始めたグループがほとんどである。

その後グループの中には、民生委員等と連携して、訪問活動を継続するとともに、入居者が土地に不案内なため、応急仮設住宅付近の地図（病院、店舗等を記戦）を配布したり、手づくりのぞうさんタオル（象の型にしたタオル）を配布したり、また、入居者の交流のきっかけづくりとして、炊き出し、お茶会、昼食会、クリスマス会、餅つき、近くの温泉に案内するバスツアー等を実施した。50戸以上の応急仮設住宅にふれあいセンターが設置されはじめると、入居者の自治会運営とふれあいセンターの管理・運営支援を行うグループもあった。

垂水保健所調査による平成8年3月31日現在の垂水区内応急仮設住宅の状況を見ると、47．5%の戸数がひとりぐらしであり、65歳以上のひとりぐらしは22．7%となっている。応急仮設住宅入居者に対して、ボランティアによる支援が今後とも必要であるとともに、長期的には、地域でお互いに支えるという意味でのボランティア活動が必要であると考える。

（応急仮設住宅ボランティア入門講座）

3. 亡き友をしのんで…盆踊り大会'95・ふれあい区民の夕べの開催

垂水区では、昭和60年から障害者、児童、高齢者をはじめすべての人々がひとつの場に集い、音楽、レクリエーション等を通じて心のふれあいを深め、相互の理解と地域におけるボランティア意識を啓発するため毎年開催している。

平成7年8月25日当日は、太陽が西に傾き、日中の暑さが少しは和らいだ夕刻午後5時30分から神戸市立垂水小学校の校庭で始まった。舞台では、垂水区子ども会連合会のチアガール演技、心身障害者小規模通所訓練施設のメンバーによる器楽演奏等が行われ、また、舞台の周囲には福祉団体、福祉施設等による金魚すくい、たこ焼き、かき氷等の販売の模擬店の他に、さおり織り等手作り品のバザーが行われ夜店の雰囲気を醸し出していた。

平成7年度は、従来の開催テーマと併せて、特に震災後初めての開催であり、亡くなられた方々をしのび、被災された方々を励まし、復興に向けて元気づけるような内容とした。震災で亡くなれた方々の霊を慰めるため、垂水区連合婦人会の総勢120名の皆さんが、幽玄に山鹿灯籠踊りを披露されるとともに、神戸市の震災復興のため、北九州市建築局より、垂水区役所に派遣されてきたことが縁となり、同市建築局の職員有志による小倉祇園太鼓が夜空に勇壮に鳴り響き、万雷の拍手を得た。皆が参加できる盆踊りの時は、家族、隣近所の人々の踊りの輪が幾重にもなり、また震災のため、盆踊りを自粛した地域も多く、今年初めての盆踊りで、もっと踊りたいとだだをこねる子供もいた。

皆が被災者であり、盆踊りなどで大人も子供もほっとしたひとときを過ごせたと思う。

事業概要表

事　業　名	事　業　概　要	8年度への課題・展望
1．生活福祉資金（災害援護資金）の貸付	震災により住宅が一部損壊以下で、家財の1／3未満の軽微な損害の場合、住宅の修繕と家財の購入のための資金貸付の受付を行った。 貸付決定　70件　78，080，000円	
2．応急仮設住宅入居者への歳末たすけあい	応急仮設住宅入居者が暖かい冬を過ごせるように、歳末たすけあい募金の配分金等により各戸へ見舞い品（羽毛ホームウェア、マフラー）を贈った。 対象戸数1，936戸	
3．ボランティアセンターの設立・運営	（1）設立　　平成7年6月15日 （2）登録状況（平成8年3月31現在）個人　230名　団体65団体　2，669名 （3）コーディネート（開設～平成8年3月31日）　74件 （4）相談等（開設～平成8年3月31日）　346件	
4．ボランティアシンポジウム・講座等の開催	（1）応急仮設住宅ボランティア入門講座（神戸市社会福祉協議会と共催）入居者支援を行うボランティア活動の入門講座を2回開催した。 1）平成7年7月20日・27日　修了者　42名 2）平成7年9月1日・8日　修了者　61名 （2）手話講習会 聴力言語障害者への理解と手話技術の習得のため、初心者を対象に講習会を開催した。 平成7年10月17日～12月19日（毎週火曜日10回）　修了者　35名 （3）介護ボランティア入門講座 主として介護を行うボランティア活動の入門講座を2回開催した。 平成7年11月8日～12月20日（7回）　修了者　37名	

	平成8年2月21日～3月21日（6回）　修了者　47名 （4）ボランティアシンポジウム 市民を対象に、今後のボランティア活動のあり方をテーマとしてケント・ギルバート氏を講師に迎えて、シンポジウムを開催した。 平成8年2月22日 演題「私のボランティア精神－これからのボランティア」 参加者　581名	
5．ボランティア活動等の広報・啓発	（1）広報誌「区社協だより“たるみ”」の発行・配布 応急仮設住宅での自治会活動、民生委員・児童委員・ボランティアの活動等を掲載した広報誌を発行し、全戸配布を行った。 発行日　平成7年10月15日 （2）広報紙「ボランティアセンターだより“たるたるハート”」の発行・配布 垂水区内の応急仮設住宅の状況、応急仮設住宅等でのボランティアの活動状況・募集等を掲載した広報紙を発行し、全戸配布を行った。 発行日　平成8年3月25日	
6．応急仮設住宅入居者への情報提供	入居者の自立に必要な情報（災害復興住宅の入居者募集、仕事を探す方法一公共職業安定所等の案内、手すり・段差解消工事の申し込み方法）を「垂水区仮設住宅ふれあいニュース」として作成し、ボランティアが各応急仮設住宅の掲示板に掲示した。	
7．応急仮設住宅美化支援活動	ボランティアグループとともに、垂水区内の応急仮設住宅内の道にプランターを設置し、そこにゼラニウム（垂水区の花。神戸市では区ごとにテーマとなる花を決めている。）を植え、世話をすることにより、環境美化を図るとともに、入居者との交流を図った。	
8．応急仮設住宅登録ボランティアグループの情報交換会の開催	応急仮設住宅で活動している登録ボランティアグループが集まり、活動の現状と今後のあり方の情報交換会を開催した。 平成7年10月3日	
9．ボランティアリフレッシュ事業	応急仮設住宅で活動しているボランティア（ふれあい推進員）とその担当民生委員児童委員を対象に、日頃の情報交換と心身のリフレッシュを図ってもらうため、バス研修旅行を実施した。 平成8年3月22日 参加者　90名	
10．ふれあい推進員の設置	応急仮設住宅入居者の福祉向上及び自立・互助とコミュニティの形成を図るため、ふれあい推進員を委嘱した。民生委員児童委員等と連携し、入居者の安否確認、友愛訪問等を行っている。 ふれあい推進員数　47名	
11．亡き友をしのんで…盆踊り大会'95ふれあい区民の夕べの開催	ぬくもりのある福祉都市づくりを実現するために、障害者、児童、高齢者をはじめ、すべての人々が音楽、レクリエーション等を通じてふれあい交流の場となり、また震災で亡くなった方々をしのび、被災者を励まし、元気づける機会となった。 （1）日時　平成7年8月25日　午後5時30分～8時40分 （2）会場　神戸市立垂水小学校校庭 （3）行事　チアガール演技、器楽演奏、ブラスバンド演奏、九州・小倉紙園太鼓、山鹿灯籠踊り、郷土芸能、盆踊り （4）模擬店　金魚すくい、関東煮、たこ焼き、かき氷、さおり織り・手作りローソク・手作りマット等のバザー （5）参加者　35，000人	

(c)1997神戸市社会福祉協議会, 兵庫県社会福祉協議会阪神・淡路大震災社会福祉復興本部 (デジタル化：神戸大学附属図書館)